

2014年度（15年3月期） 第3四半期 決算概要

2015年1月29日

日本電気株式会社

(<http://jpn.nec.com/ir>)

I. 第3四半期 決算概要

II. 業績予想

- 第3四半期 決算概要（補足）
- 業績予想（補足）
- 参考資料（業績データ）

I. 第3四半期 決算概要

第3四半期 実績サマリー

9ヵ月累計の損益は、前年同期比で大幅増益

- 9ヵ月累計の現在注力する事業ベース売上高は約2%の増収

(単位:億円)

	第3四半期 <10~12月>			第3四半期累計期間 <9ヵ月>		
	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比
売上高	7,004	6,772	△ 3.3%	20,835	20,020	△ 3.9%
営業利益 対売上高比率(%)	234 3.3%	141 2.1%	△ 92	237 1.1%	356 1.8%	+ 119
経常利益 対売上高比率(%)	200 2.9%	197 2.9%	△ 3	55 0.3%	364 1.8%	+ 309
当期純損益 対売上高比率(%)	111 1.6%	103 1.5%	△ 8	△ 151 -0.7%	228 1.1%	+ 378
フリー・キャッシュ・フロー	8	△ 624	△ 631	△ 941	△ 757	+ 184

参考： 14年度第3四半期(10~12月)の売上平均為替レート(実績) 1ドル=110.42円、1ユーロ=140.08円
 14年度第3四半期累計期間(9ヵ月)の売上平均為替レート(実績) 1ドル=104.97円、1ユーロ=139.65円
 (10/30時点での14年度下期の為替レート前提 1ドル=105円、1ユーロ=135円)

13年度第3四半期(10~12月)の売上平均為替レート(実績) 1ドル=99.04円、1ユーロ=133.58円
 13年度第3四半期累計期間(9ヵ月)の売上平均為替レート(実績) 1ドル=98.42円、1ユーロ=130.15円

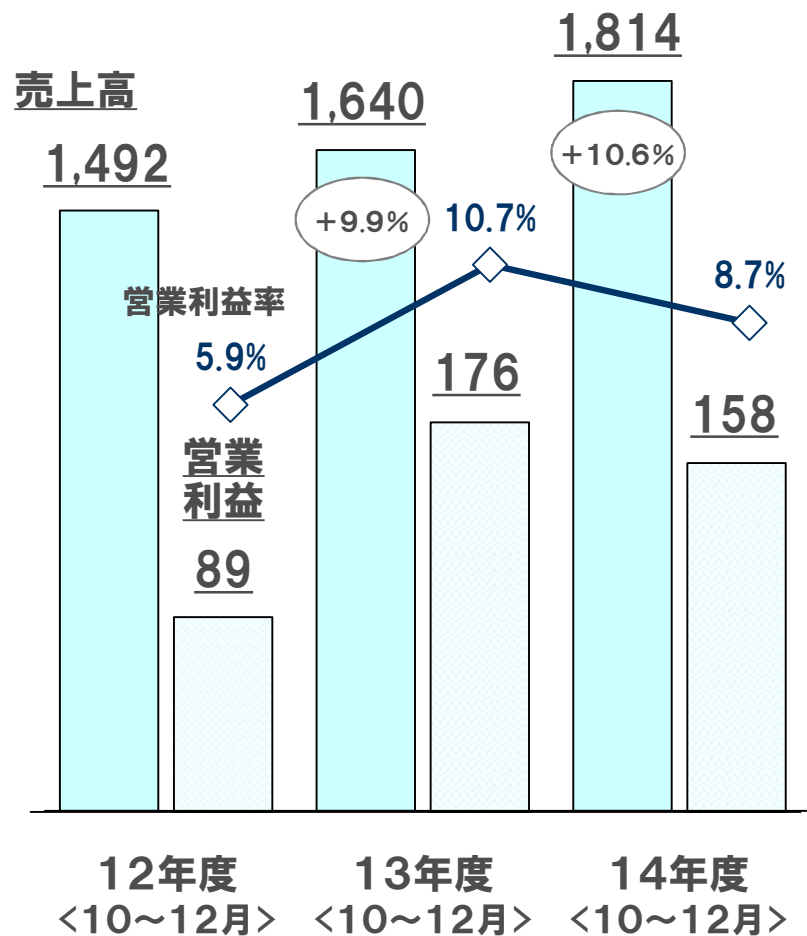
セグメント別 第3四半期実績サマリー

(単位:億円)

			第3四半期 <10~12月>			第3四半期累計期間 <9ヵ月>		
			13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比
パブリック	売上高	1,640	1,814	+ 10.6%	4,673	5,259	+ 12.5%	
	営業利益	176	158	△ 18	321	377	+ 56	
	営業利益率(%)	10.7%	8.7%		6.9%	7.2%		
	売上高	607	612	+ 0.8%	1,908	1,879	△ 1.5%	
	営業損益	△ 2	5	+ 7	5	28	+ 23	
	営業利益率(%)	-0.3%	0.9%		0.3%	1.5%		
テレコムキャリア	売上高	1,727	1,708	△ 1.1%	5,067	5,033	△ 0.7%	
	営業利益	124	88	△ 36	318	254	△ 64	
	営業利益率(%)	7.2%	5.1%		6.3%	5.0%		
システム プラットフォーム	売上高	1,857	1,705	△ 8.2%	5,364	5,159	△ 3.8%	
	営業利益	80	44	△ 36	98	131	+ 33	
	営業利益率(%)	4.3%	2.6%		1.8%	2.5%		
その他	売上高	1,173	933	△ 20.5%	3,822	2,691	△ 29.6%	
	営業損益	8	△ 31	△ 40	△ 110	△ 59	+ 51	
	営業利益率(%)	0.7%	-3.4%		-2.9%	-2.2%		
消去・配賦不能	営業損益	△ 152	△ 123	+ 30	△ 395	△ 375	+ 20	
合計	売上高	7,004	6,772	△ 3.3%	20,835	20,020	△ 3.9%	
	営業利益	234	141	△ 92	237	356	+ 119	
	営業利益率(%)	3.3%	2.1%		1.1%	1.8%		

(億円)

前年
同期比



売上高 1,814億円 (+10.6%)

△ 公共向けを中心に堅調に推移し増収

営業利益 158億円 (△18億円)

▽ 前年に採算性が高い案件が集まったことなどにより減益



※ カッコ内の%は前年同期比

エンタープライズ

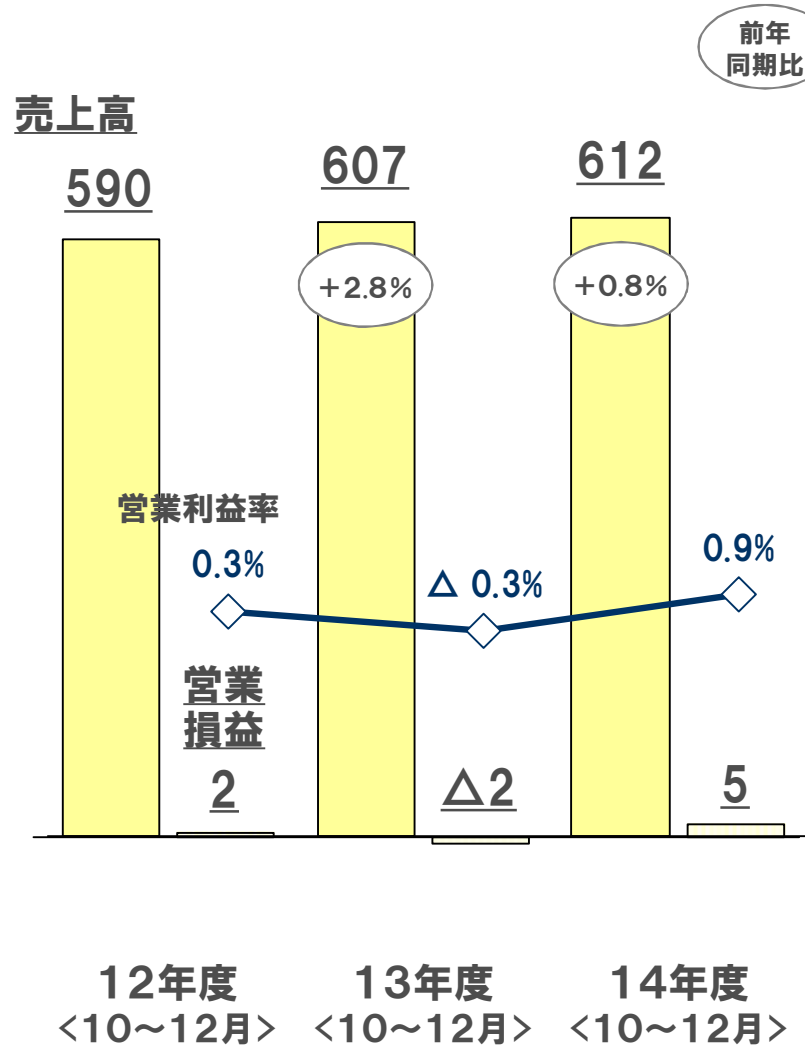
(億円)

売上高 612億円 (+0.8%)

△ 流通・サービス業向けが増加

営業損益 5億円 (+7億円)

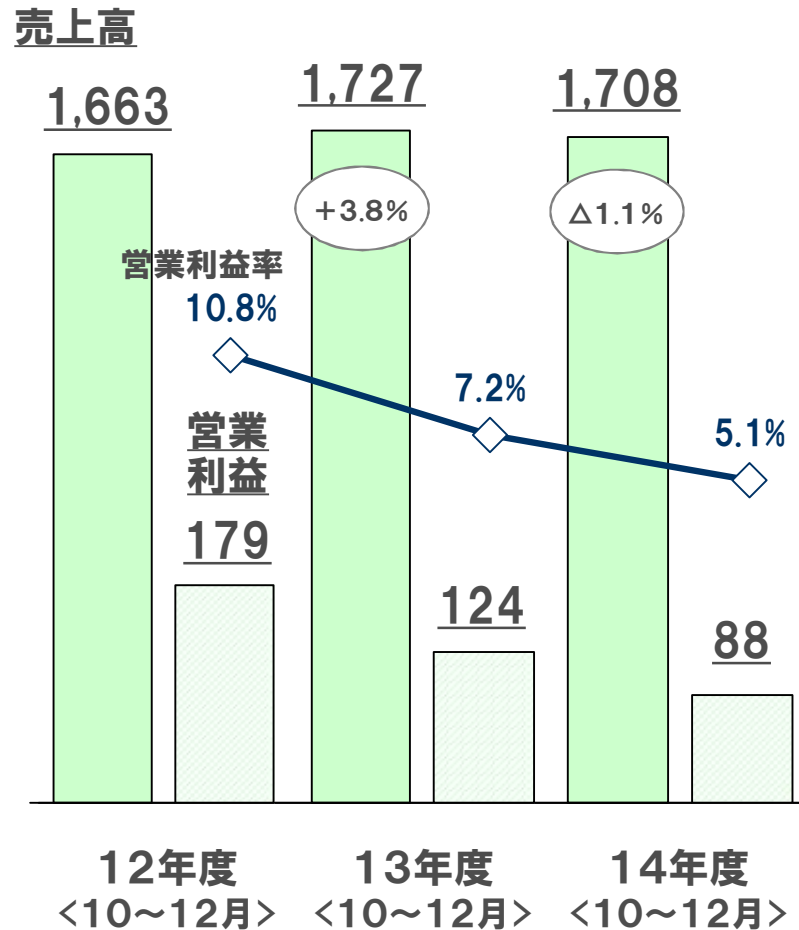
△ 売上増に加え、費用効率化などにより増益



※ カッコ内の%は前年同期比

(億円)

前年
同期比



売上高 1,708億円 (Δ1.1%)

- ▽ 国内、海外ともに横ばい
- △ TOMS、海洋システムは堅調

営業利益 88億円 (Δ36億円)

- ▽ SDN関連の投資費用増加などにより減益

TOMS: Telecom Operations and Management Solutions
SDN : Software-Defined Networking

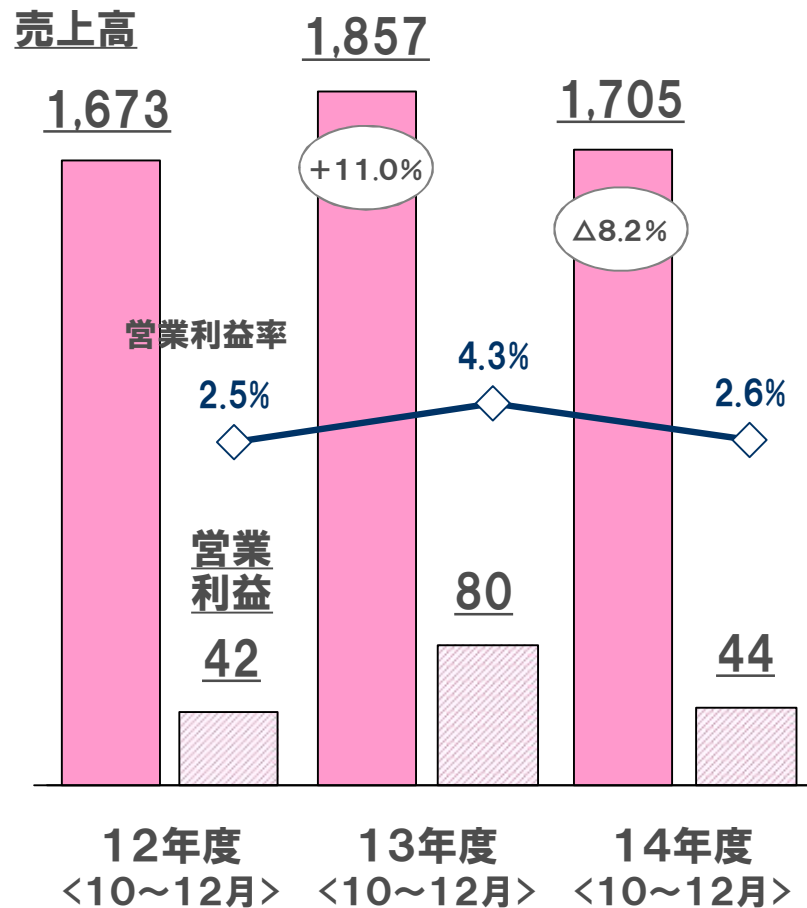


※ カッコ内の%は前年同期比

システムプラットフォーム

(億円)

前年
同期比



売上高 1,705億円 (Δ8.2%)

▽ ビジネスPCを中心にハードウェアが減少

営業利益 44億円 (Δ36億円)

▽ 売上減に加え、円安の影響により減益



※ カッコ内の%は前年同期比

その他

(億円)

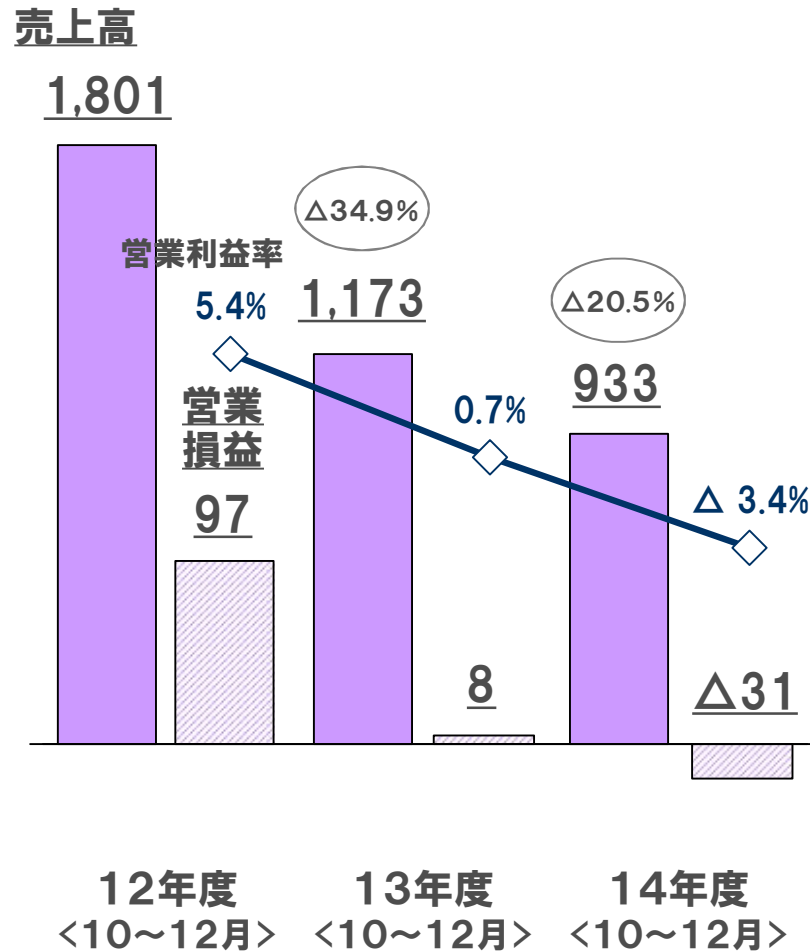
売上高 933億円 (Δ20.5%)

▽ NECビッグロープの非連結化などにより減収

前年
同期比

営業損益 Δ31億円 (Δ40億円)

▽ 事業の非連結化の影響などにより減益



※ カッコ内の%は前年同期比

当期純利益増減 (前年同期比)

(億円)

13年度3Q
<10~12月>
111

営業利益減少
△92

その他	△40
テレコムキャリア	△36
システムプラットフォーム	△36
パブリック	△18
エンタープライズ	+7
消去・配賦不能	+30

その他
△4

関係会社株式売却益	△62
法人税等	+53

14年度3Q
<10~12月>
103

営業外損益改善
+89

為替差損益	+39
持分法による投資利益	+7

主な成果と取り組み①

SDN関連

- 沖縄県西原町の新庁舎ネットワークをSDNで構築
- 国内MVNO事業者向けvMVNOソリューションが商用稼働開始
- 韓国大手通信事業者KTとSDN領域で協業

MVNO : Mobile Virtual Network Operator
vMVNO : Virtualized MVNO

ビッグデータ関連

- 米テキサス州立大学と水の保全管理など社会インフラプロジェクトで提携



セーフティ関連

- インドのホテルグループLemon Tree Hotelsに顔認証ソリューション納入
- (株)ティパーズに顔認証技術を利用した本人確認システムを提供

主な成果と取り組み②

グローバル事業拡大

- 世界初の南大西洋横断光海底ケーブルの建設請負契約を締結
- シンガポール経済開発庁とサイバーセキュリティ、スマートエネルギー、ヘルスケア、IoT領域でMOUを締結
- オーストラリアの大手通信事業者Optus（オプタス）からTOMS受注
- オーストラリアの北部準州政府向けマネージドサービス受注
- コロンビアの学校や公民館にICT環境を構築



IoT : Internet of Things

II. 業績予想

業績予想サマリー

営業利益1,200億円の確実な達成を目指す

(現在注力する事業ベース売上高では約4%の増収)

(単位:億円)

	第4四半期 <1~3月>			通期			10/30 予想比
	13年度 実績	14年度 予想	前年 同期比	13年度 実績	14年度 予想	前年度比	
売上高	9,596	9,980	+ 4.0%	30,431	30,000	△ 1.4%	0
営業利益 対売上高比率 (%)	825 8.6%	844 8.5%	+ 19	1,062 3.5%	1,200 4.0%	+ 138	0
経常利益 対売上高比率 (%)	637 6.6%	536 5.4%	△ 100	692 2.3%	900 3.0%	+ 208	0
当期純利益 対売上高比率 (%)	488 5.1%	122 1.2%	△ 366	337 1.1%	350 1.2%	+ 13	0

参考：14年度4Qの為替レート前提 1ドル=115円、1ユーロ=140円

※ 予想値は、2015年1月29日現在

セグメント別 業績予想

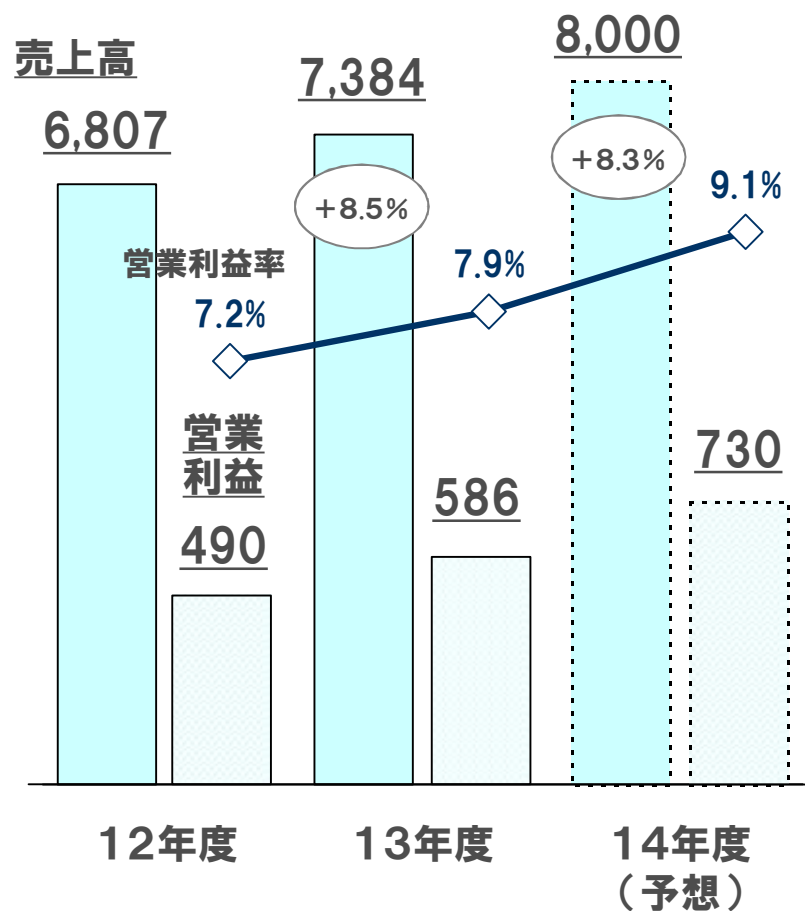
(単位:億円)

		第4四半期 <1~3月>			通期			10/30 予想比
		13年度 実績	14年度 予想	前年 同期比	13年度 実績	14年度 予想	前年度比	
パブリック	売上高	2,710	2,741	+ 1.1%	7,384	8,000	+ 8.3%	0
	営業利益 営業利益率(%)	265 9.8%	353 12.9%	+ 88	586 7.9%	730 9.1%	+ 144	0
エンタープライズ	売上高	815	871	+ 6.9%	2,723	2,750	+ 1.0%	0
	営業利益 営業利益率(%)	60 7.4%	62 7.1%	+ 2	65 2.4%	90 3.3%	+ 25	0
テレコムキャリア	売上高	2,190	2,667	+ 21.8%	7,258	7,700	+ 6.1%	0
	営業利益 営業利益率(%)	285 13.0%	406 15.2%	+ 121	603 8.3%	660 8.6%	+ 57	0
システム プラットフォーム	売上高	2,443	2,591	+ 6.1%	7,808	7,750	△ 0.7%	0
	営業利益 営業利益率(%)	209 8.6%	219 8.5%	+ 10	307 3.9%	350 4.5%	+ 43	0
その他	売上高	1,437	1,109	△ 22.8%	5,259	3,800	△ 27.7%	0
	営業損益 営業利益率(%)	96 6.7%	69 6.2%	△ 27	△ 14 -0.3%	10 0.3%	+ 24	0
消去・配賦不能		△ 91	△ 265	△ 175	△ 486	△ 640	△ 154	0
合 計	売上高	9,596	9,980	+ 4.0%	30,431	30,000	△ 1.4%	0
	営業利益 営業利益率(%)	825 8.6%	844 8.5%	+ 19	1,062 3.5%	1,200 4.0%	+ 138	0

※ 予想値は、2015年1月29日現在

(億円)

前年度比



売上高 8,000億円 (+8.3%)

△ 官公向け、公共向けを中心に
堅調な推移を見込む

営業利益 730億円 (+144億円)

△ 売上増、原価低減、不採算案件の減など
により増益を見込む

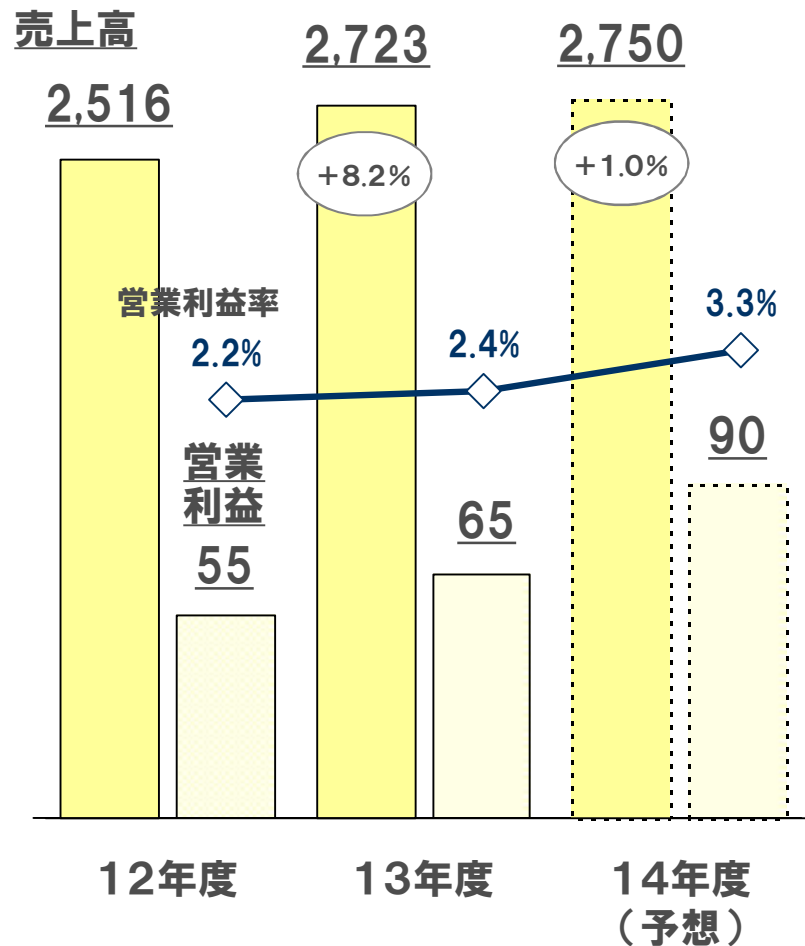


※ 予想値は、2015年1月29日現在、カッコ内の%は前年度比

エンタープライズ

(億円)

前年度比



売上高 2,750億円 (+1.0%)

△ 流通・サービス業向けの増加を見込む

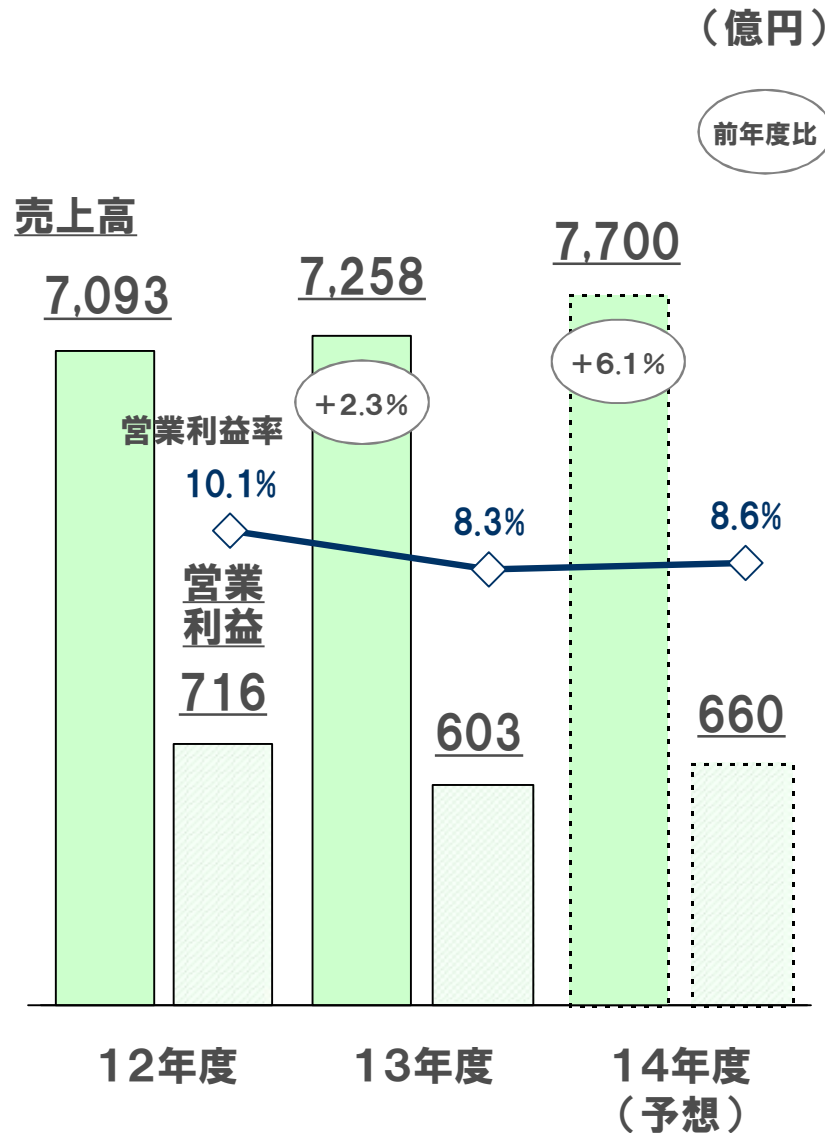
営業利益 90億円 (+25億円)

△ 売上増に加え、費用効率化などにより増益を見込む



※ 予想値は、2015年1月29日現在、カッコ内の%は前年度比

テレコムキャリア



売上高 7,700億円 (+6.1%)

- △ 国内は横ばいを見込む
- △ 海外はTOMS、モバイルバックホール、海洋システムなどで増収を見込む

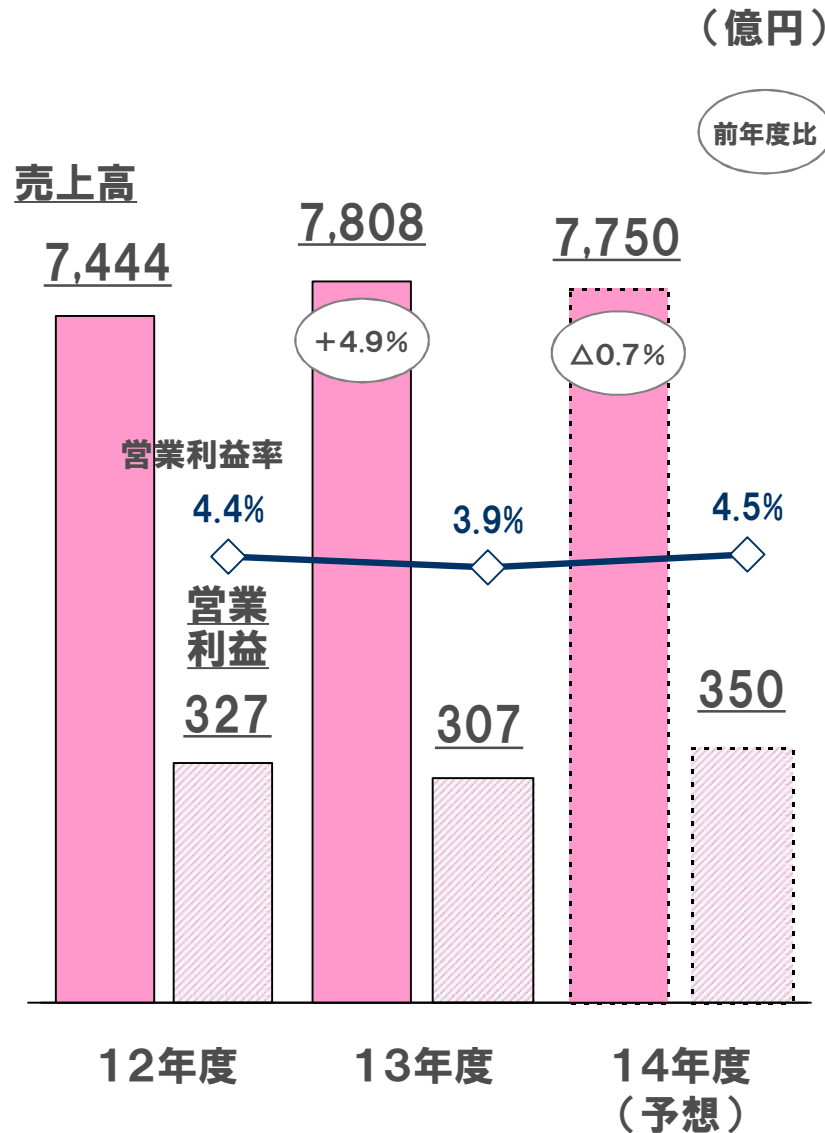
営業利益 660億円 (+57億円)

- △ 海外を中心とした売上増により増益を見込む



※ 予想値は、2015年1月29日現在、カッコ内の%は前年度比

システムプラットフォーム



売上高 7,750億円 (Δ0.7%)

▽ サーバやソフトウェアなどが増加するも、ビジネスPCの減少により減収を見込む

営業利益 350億円 (+43億円)

△ NECフィールドイングの統合効果やサーバやソフトウェアなどの売上増により増益を見込む



※ 予想値は、2015年1月29日現在、カッコ内の%は前年度比

その他

(億円)

売上高 3,800億円 (Δ27.7%)

前年度比

▽ NECビッグロップの株式売却に伴う非連結化などにより減収を見込む

売上高

6,857

Δ23.3%

5,259

Δ27.7%

3,800

営業利益率
2.5%

営業
損益

169

Δ 0.3%

0.3%

Δ 14

10

12年度

13年度

14年度
(予想)

営業損益 10億円 (+24億円)

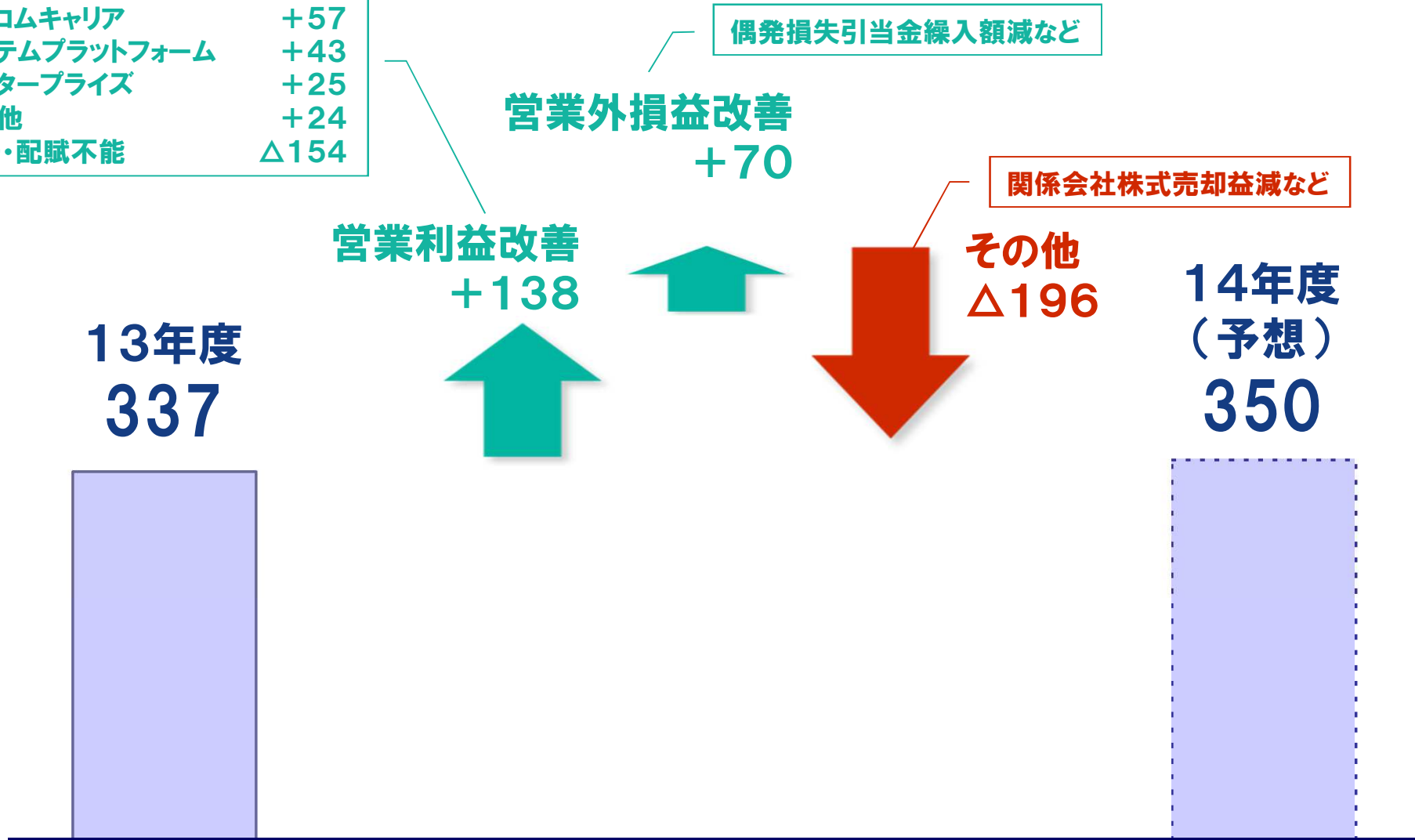
△ 事業の非連結化の影響があるものの、携帯電話端末事業やエネルギー事業の改善などにより増益を見込む

※ 予想値は、2015年1月29日現在、カッコ内の%は前年度比

当期純利益増減（前年度比）

（億円）

パブリック	+144
テレコムキャリア	+57
システムプラットフォーム	+43
エンタープライズ	+25
その他	+24
消去・配賦不能	△154



※ 予想値は、2015年1月29日現在



**2014年度計画は
2015中期経営計画の実現に向けた
重要なステップとして達成すべき目標**

**3年連続で年間計画を確実に達成して
安定的な配当を継続**

※ 予想値は、2015年1月29日現在

\Orchestrating a brighter world

世界の想いを、未来へつなげる。

未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。
それは「安全」「安心」「効率」「公平」という価値が実現された社会です。

NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ
類のないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、
卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、
世界の国々や地域の人々と協奏しながら、
明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。



Empowered by Innovation

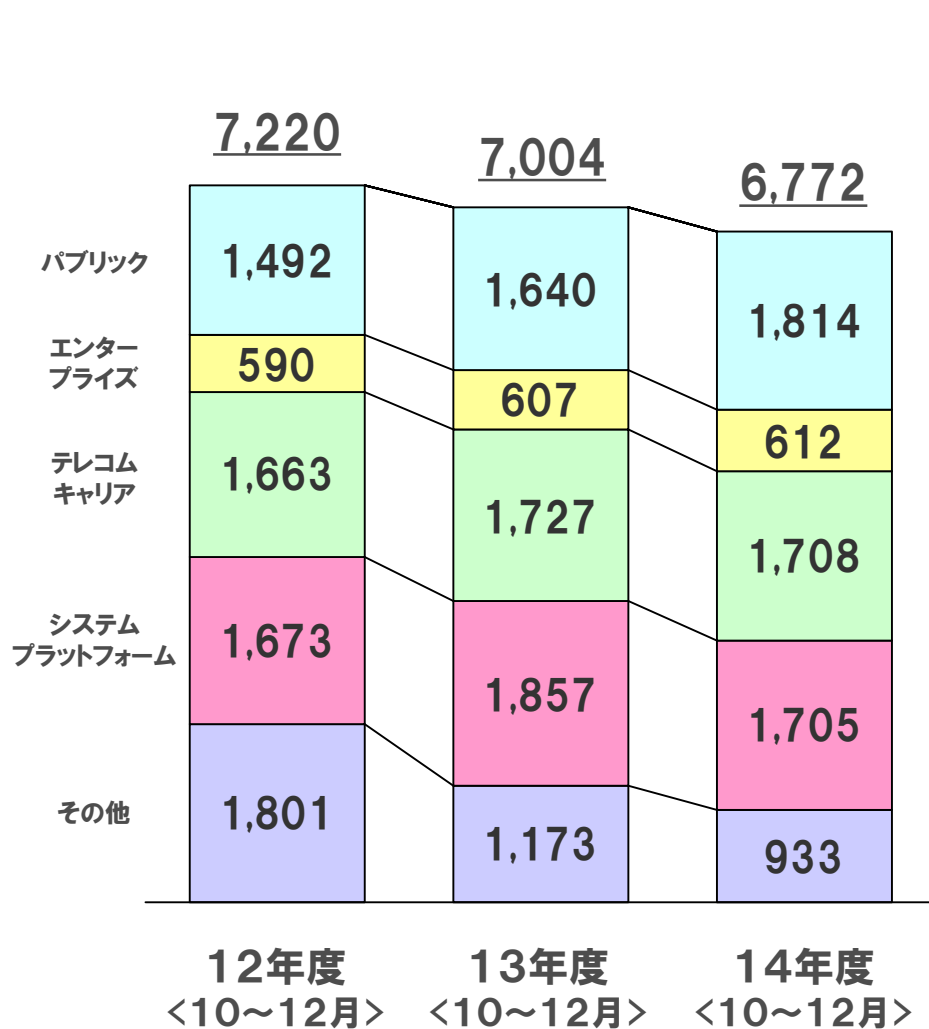
NEC

第3四半期 決算概要（補足）

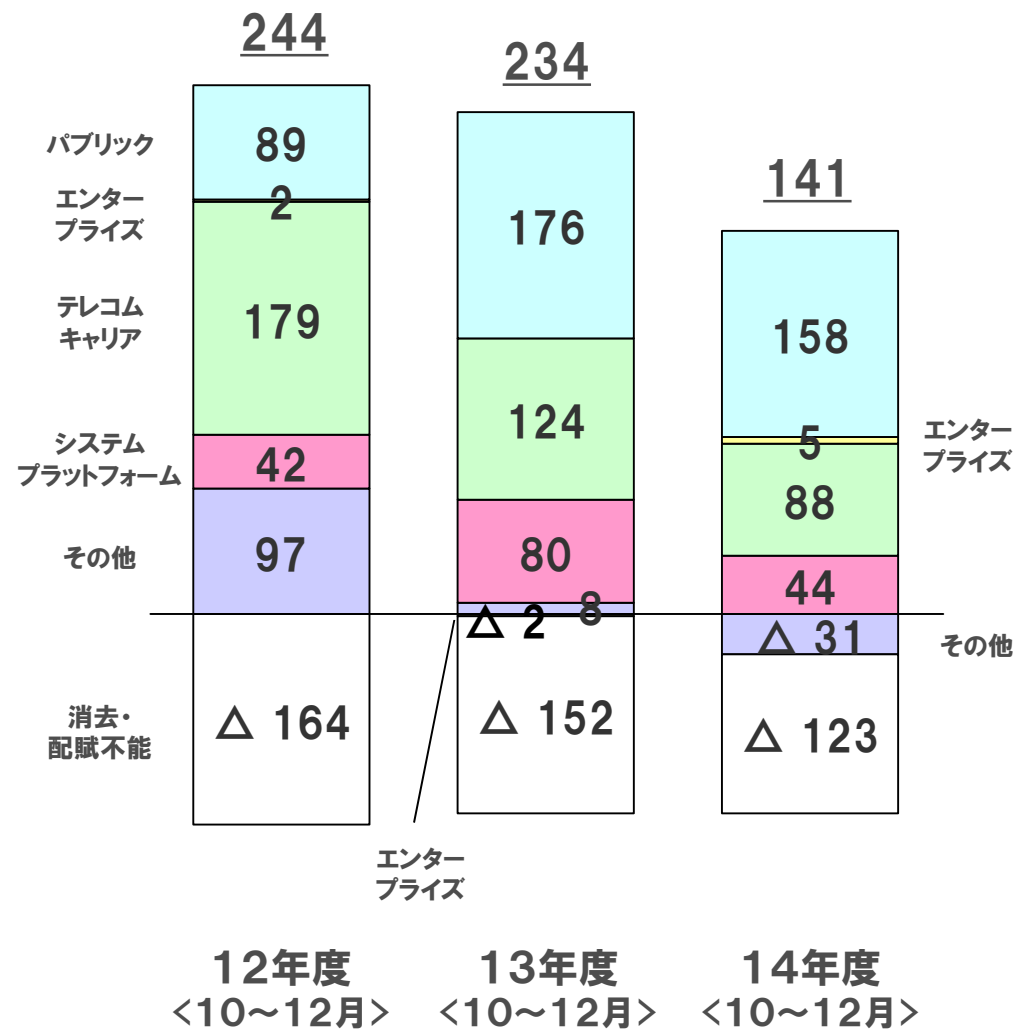
セグメント別 第3四半期実績 (3ヵ年推移)

(億円)

売上高



営業損益



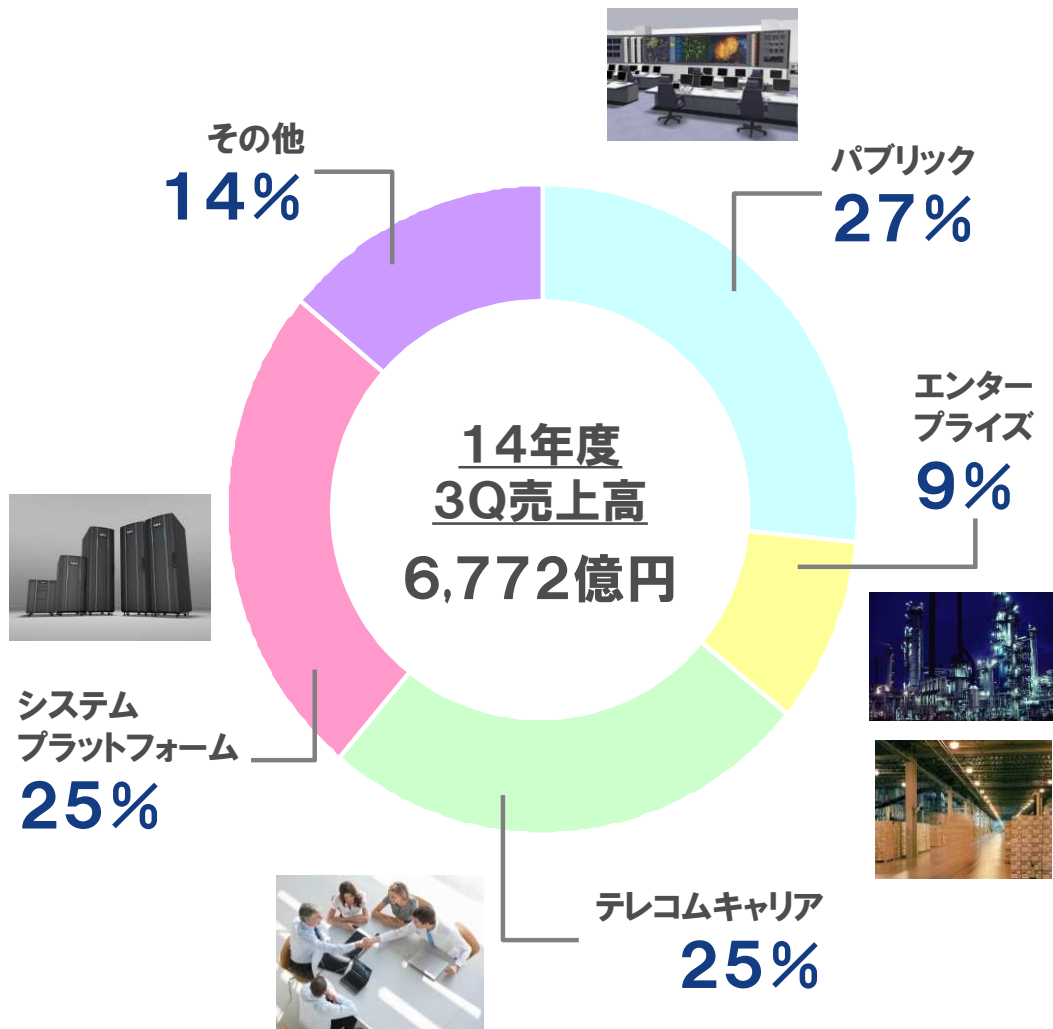
エンター
プライズ

セグメント別 第3四半期実績

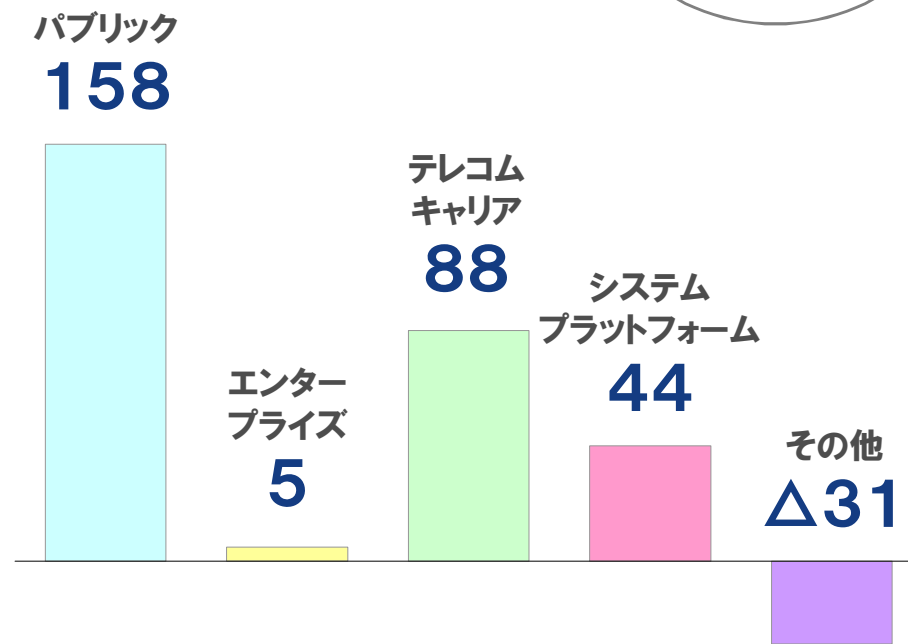
売上高

営業損益

(億円)

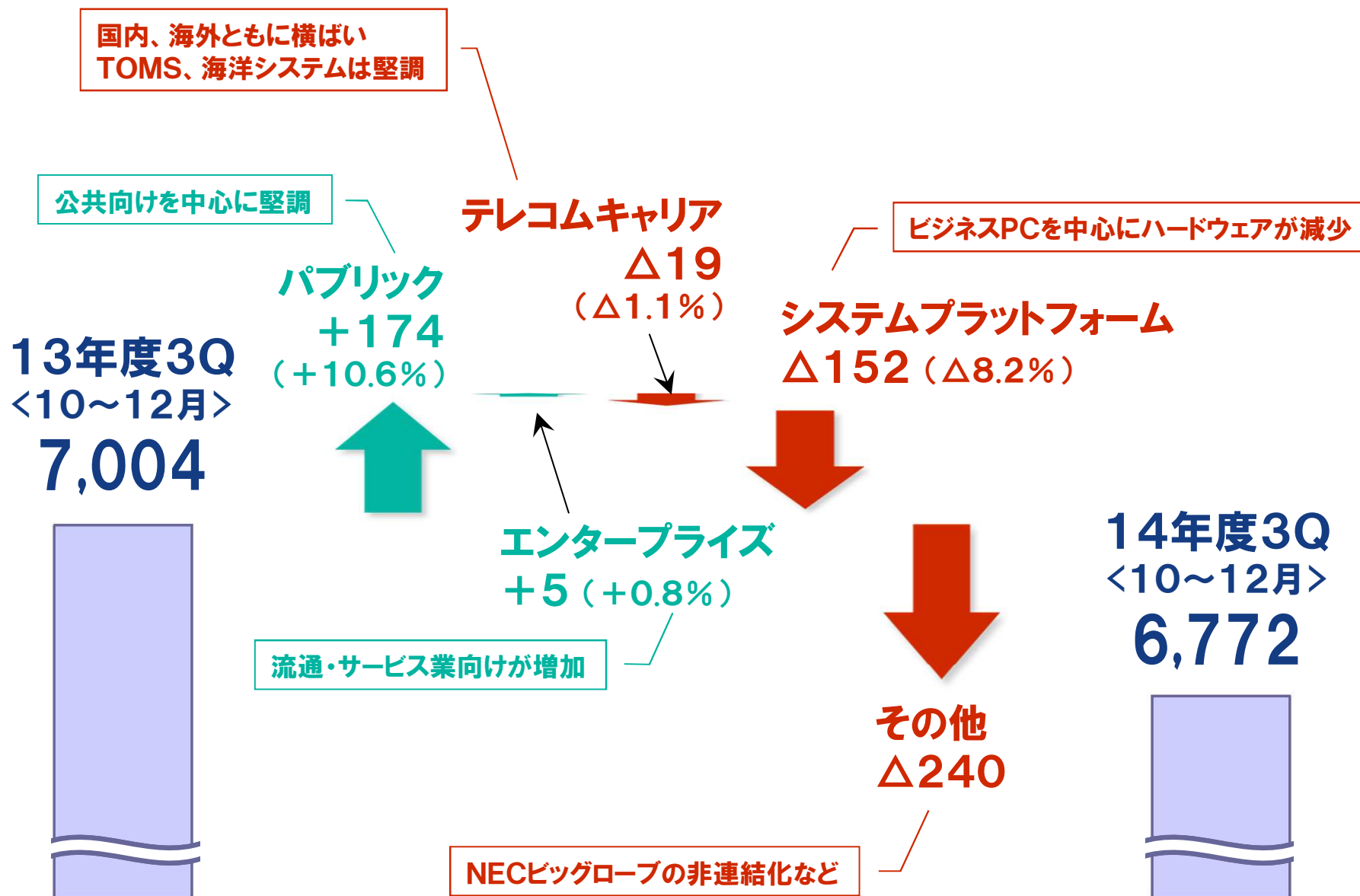


14年度
3Q営業利益
141億円



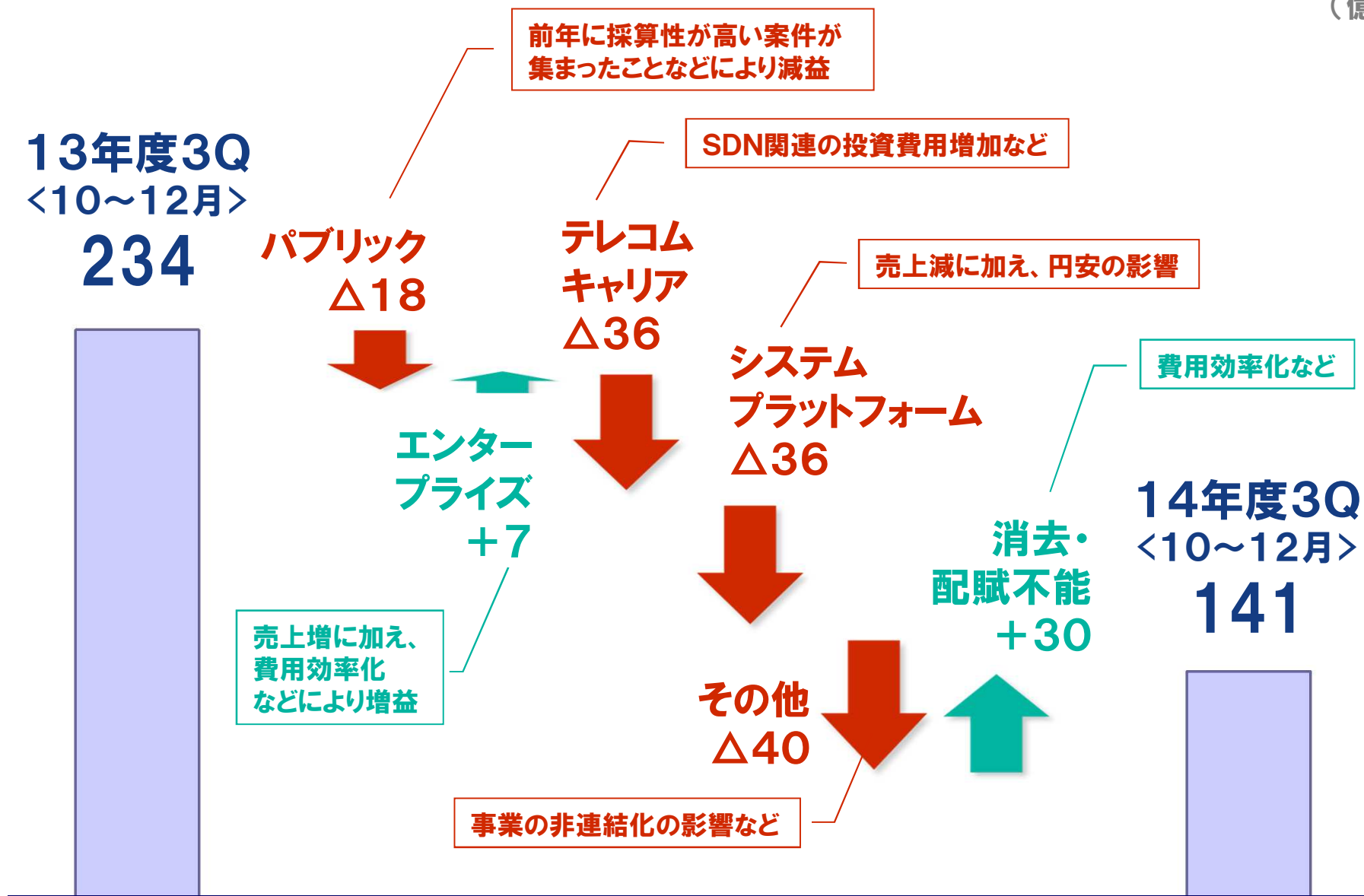
売上高増減 (前年同期比)

(億円)



営業利益増減 (前年同期比)

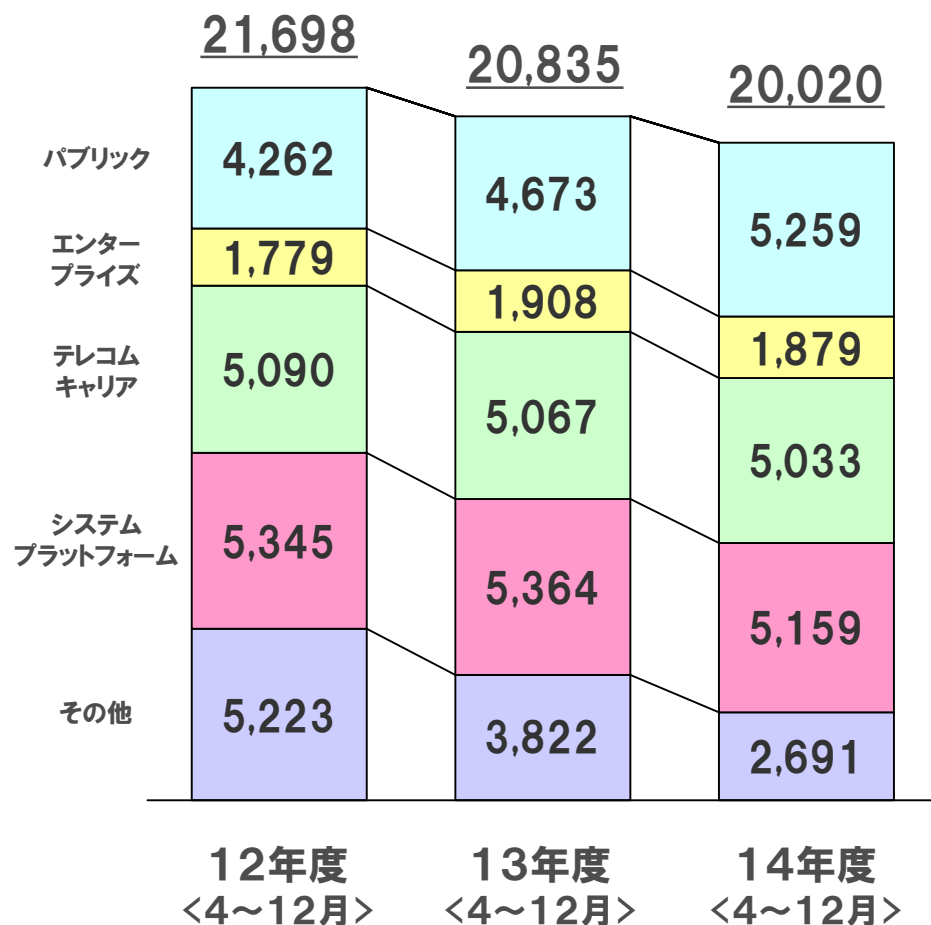
(億円)



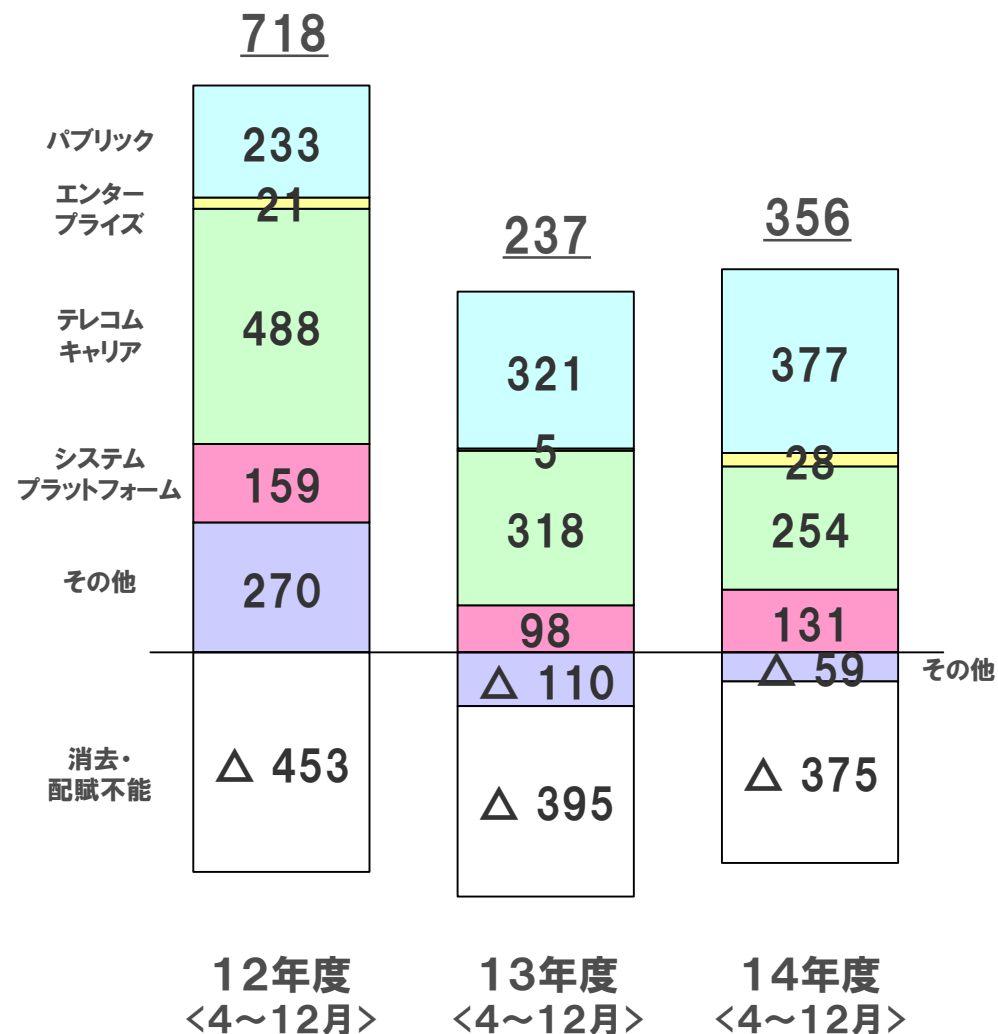
セグメント別 第3四半期累計実績 (3ヵ年推移)

(億円)

売上高



営業損益

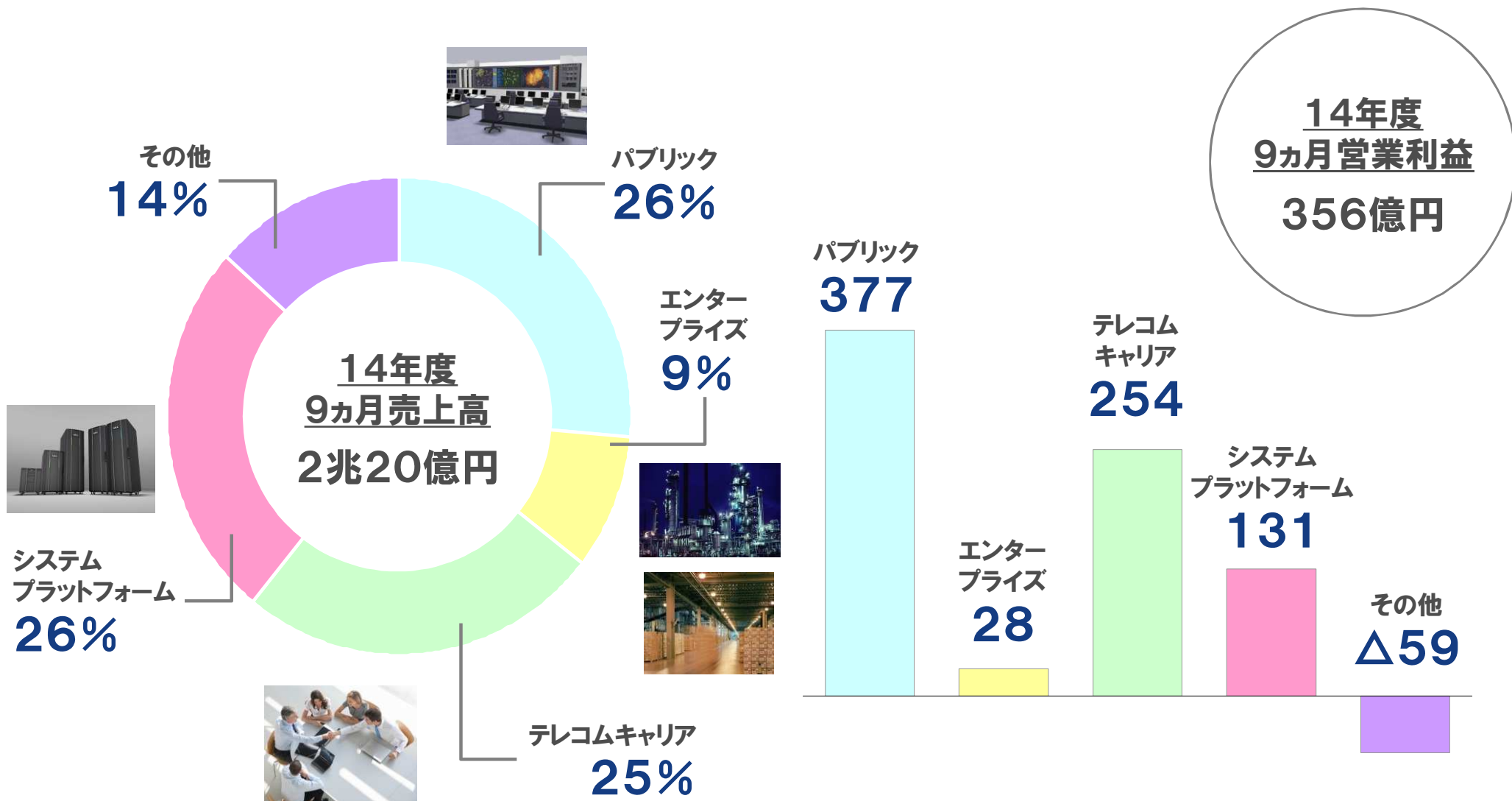


セグメント別 第3四半期累計実績

売上高

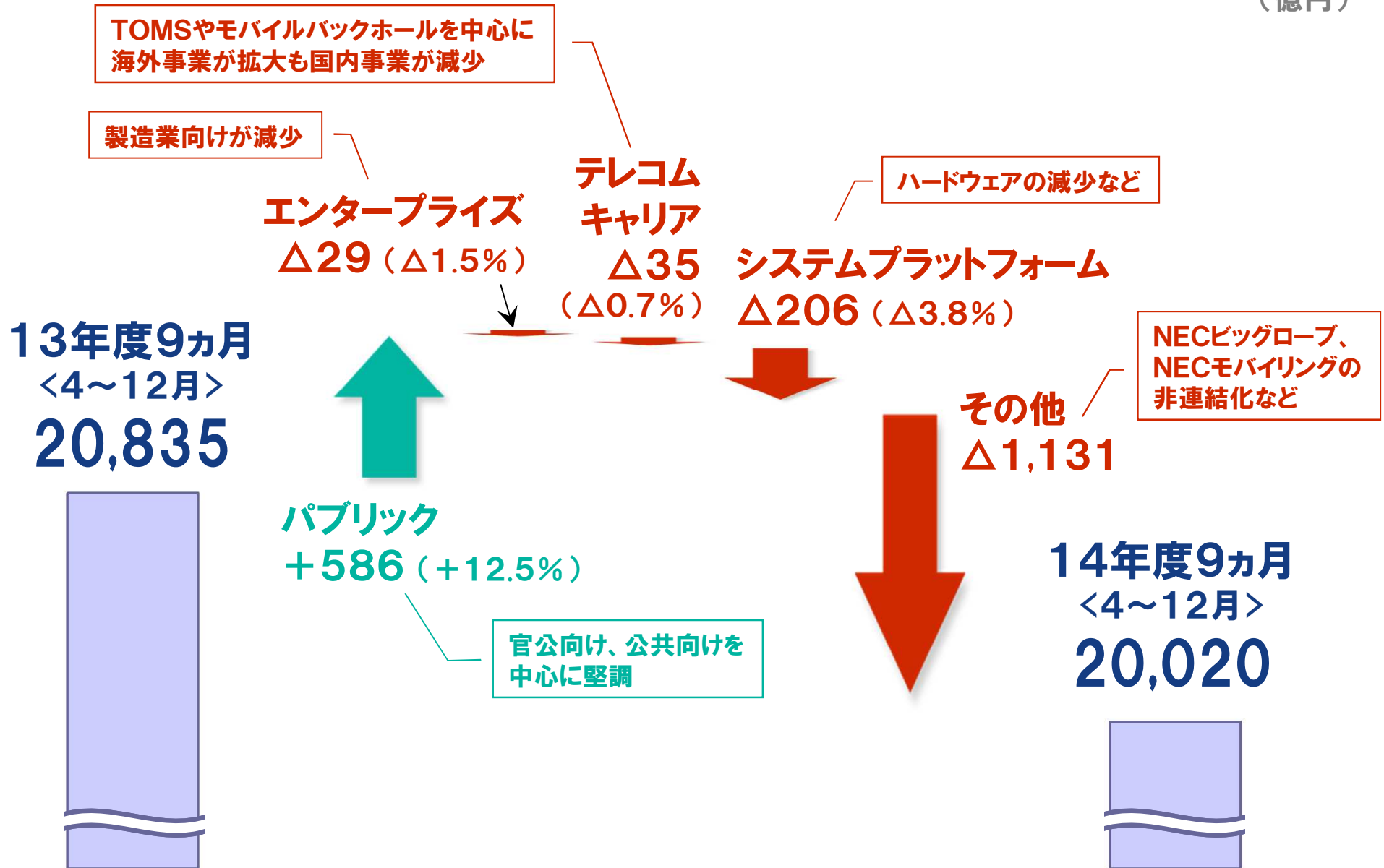
営業損益

(億円)



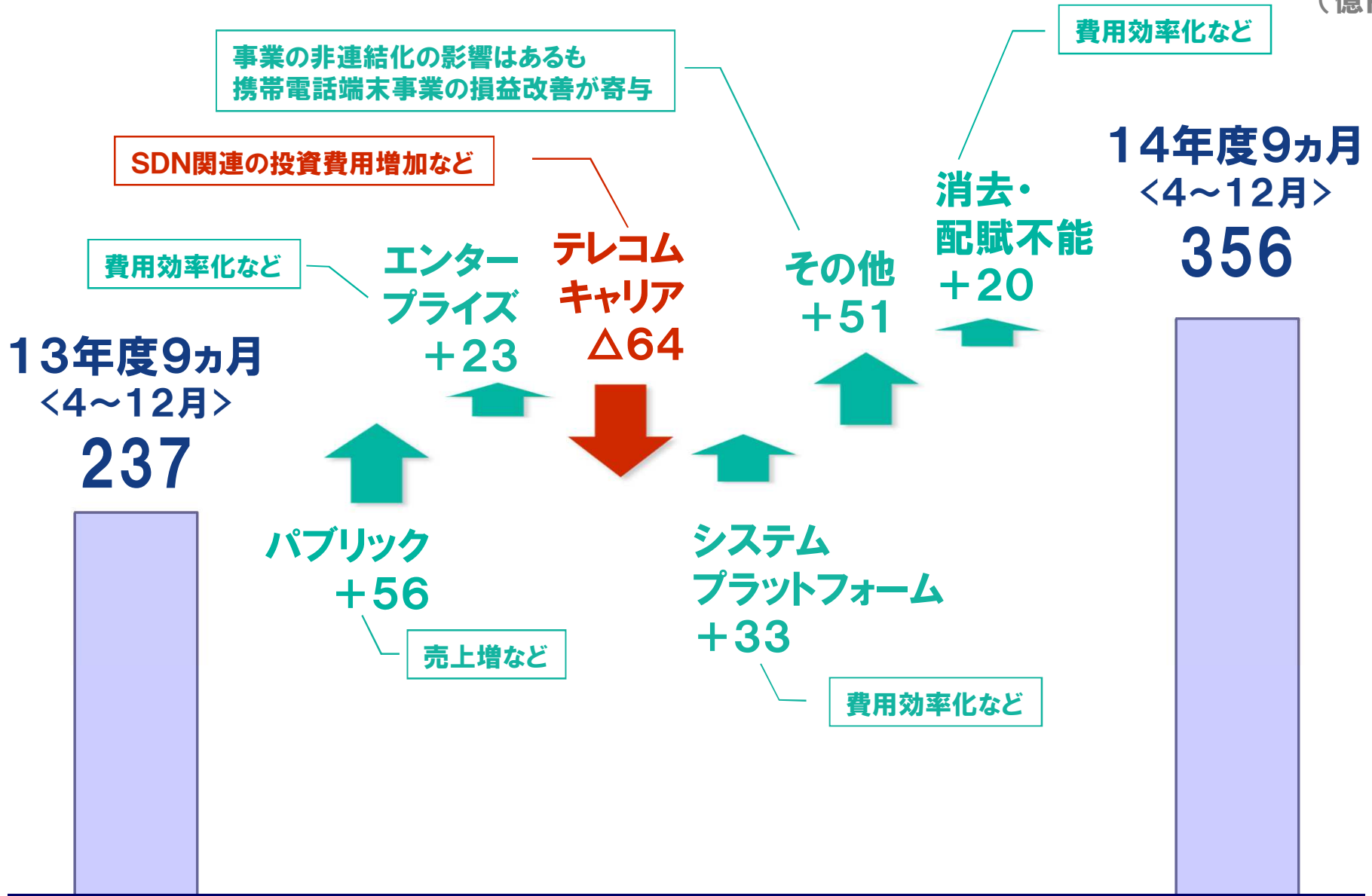
売上高増減 (4~12月 / 前年同期比)

(億円)



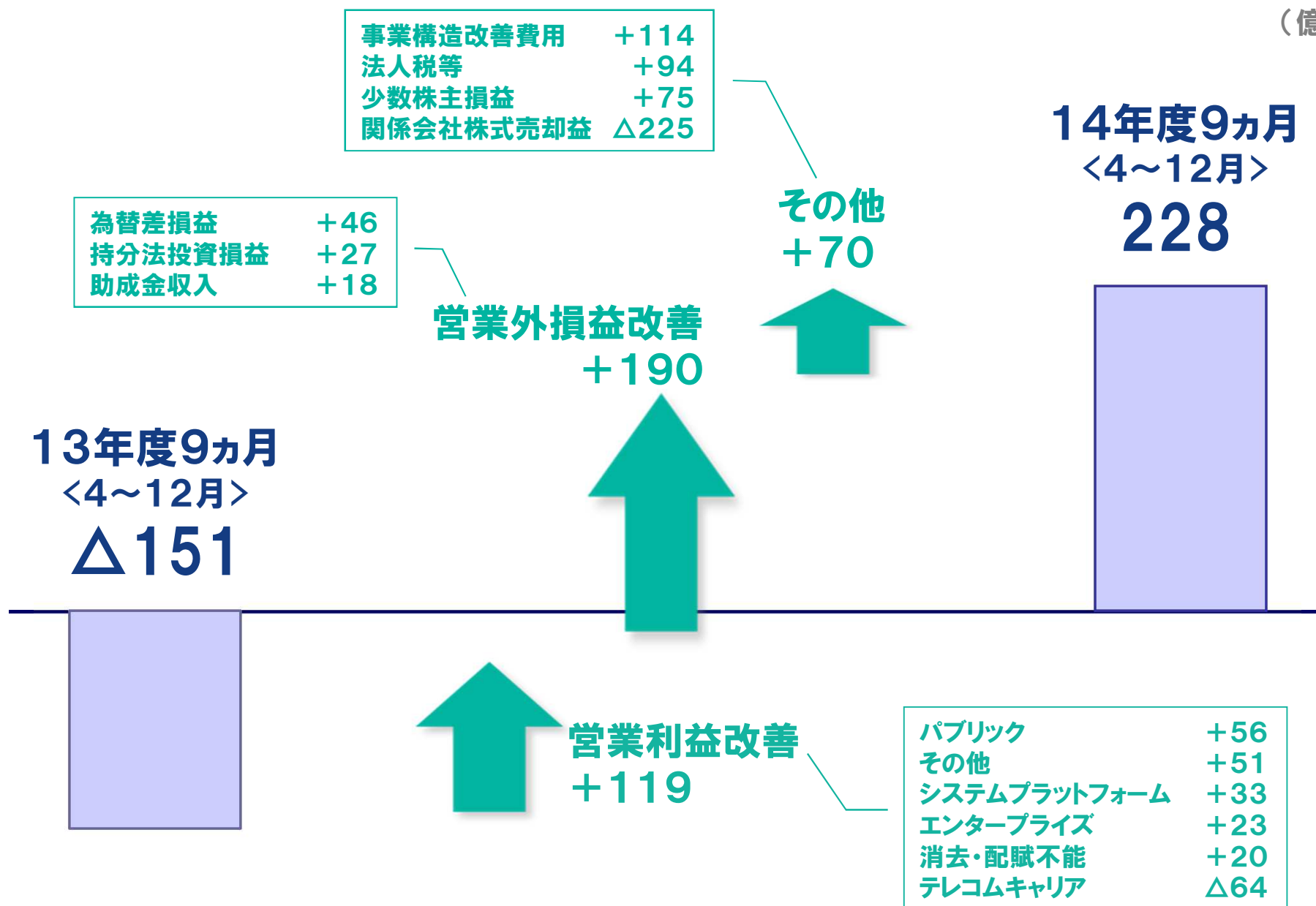
営業利益増減 (4~12月 / 前年同期比)

(億円)



当期純損益増減 (4~12月 / 前年同期比)

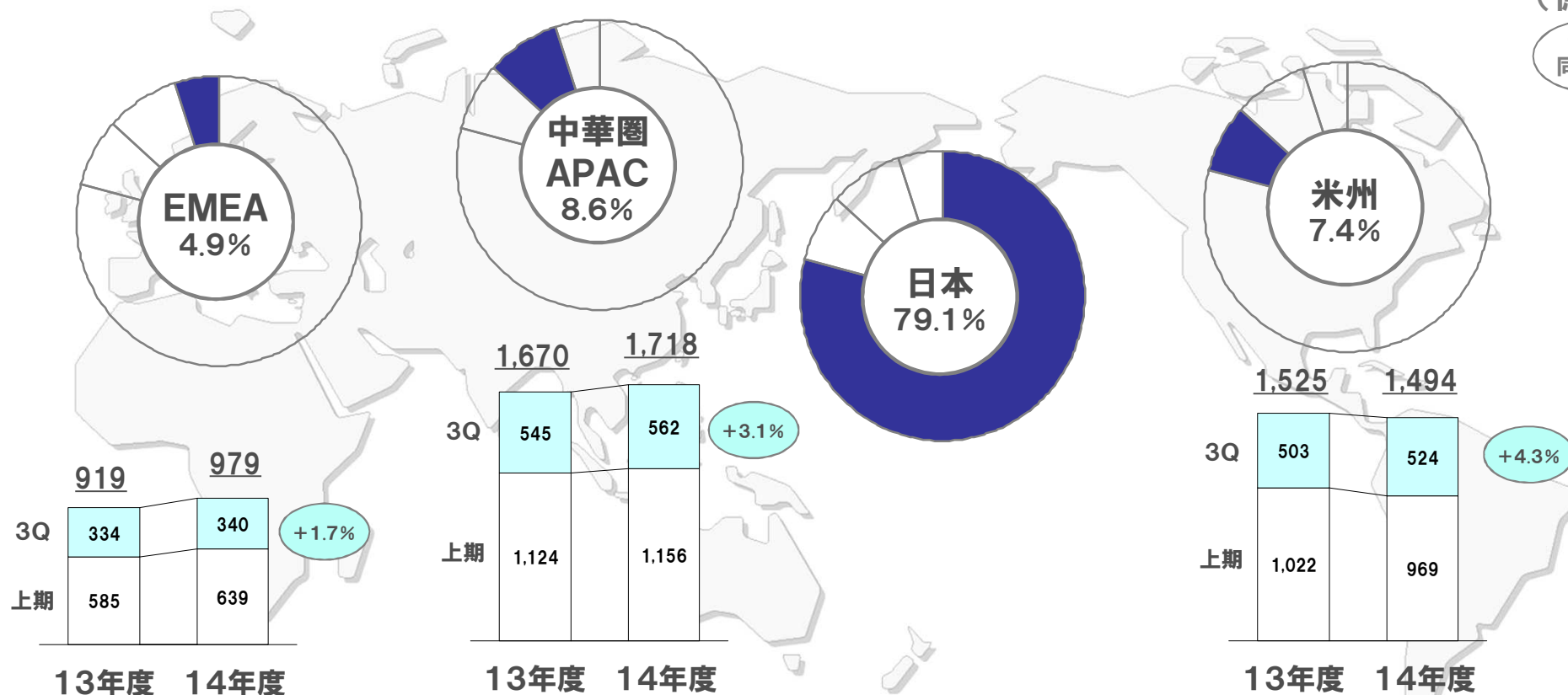
(億円)



海外売上高

(億円)

前年
同期比



	第3四半期 <10~12月>		
	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比
海外売上高	1,382	1,426	+ 3.2%
売上高比率 (%)	19.7%	21.1%	

	第3四半期累計 <4~12月>		
	13年度 実績	14年度 実績	前年 同期比
海外売上高	4,113	4,191	+ 1.9%
売上高比率 (%)	19.7%	20.9%	

※ 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。円グラフの比率は9ヵ月累計で計算しています。

財政状態に関する経営指標

(単位:億円)

	14/3末	14/12末	14/3末比	13/12末
総資産	25,053	25,349	+ 295	25,419
純資産	7,677	7,830	+ 153	8,171
有利子負債残高	5,752	6,364	+ 613	6,862
自己資本 自己資本比率(%)	6,959 27.8%	7,220 28.5%	+ 260 + 0.7pt	7,123 28.0%
D/Eレシオ(倍)	0.83	0.88	△ 0.05pt	0.96
ネットD/Eレシオ(倍)	0.53	0.63	△ 0.10pt	0.72
現金及び現金同等物の 期末残高	2,066	1,805	△ 261	1,702

《参考》貸借対照表の状況（14/12末）

総資産 2兆5,349億円（前年度末比 +295億円）

流動資産

1兆5,114億円

売掛債権の回収などがあったものの、
たな卸資産が増加

+85

固定資産

1兆235億円

関係会社株式の増加

+211

負債

1兆7,519億円

前年度末比
（億円）

+142

純資産

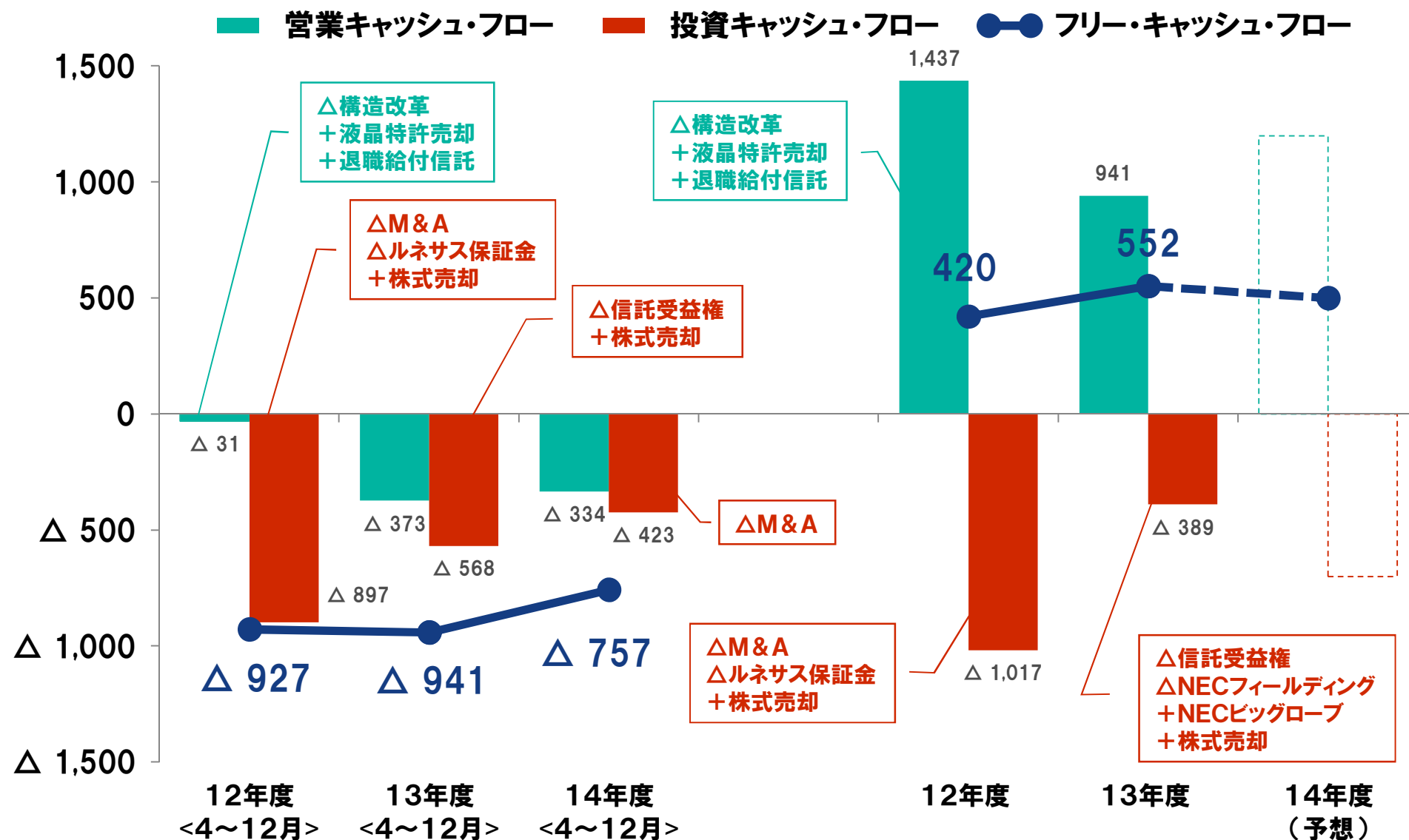
7,830億円

四半期純利益の計上

+153

フリー・キャッシュ・フローの状況

(億円)



※ 予想値は、2015年1月29日現在

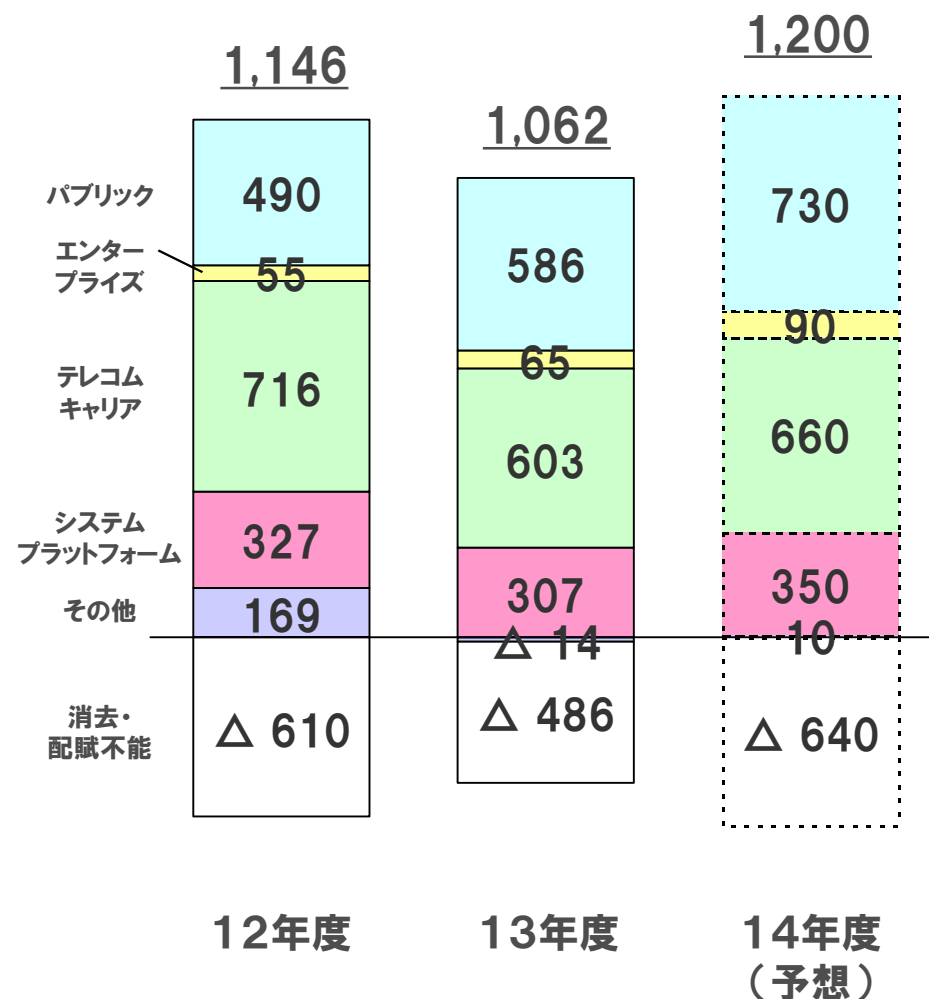
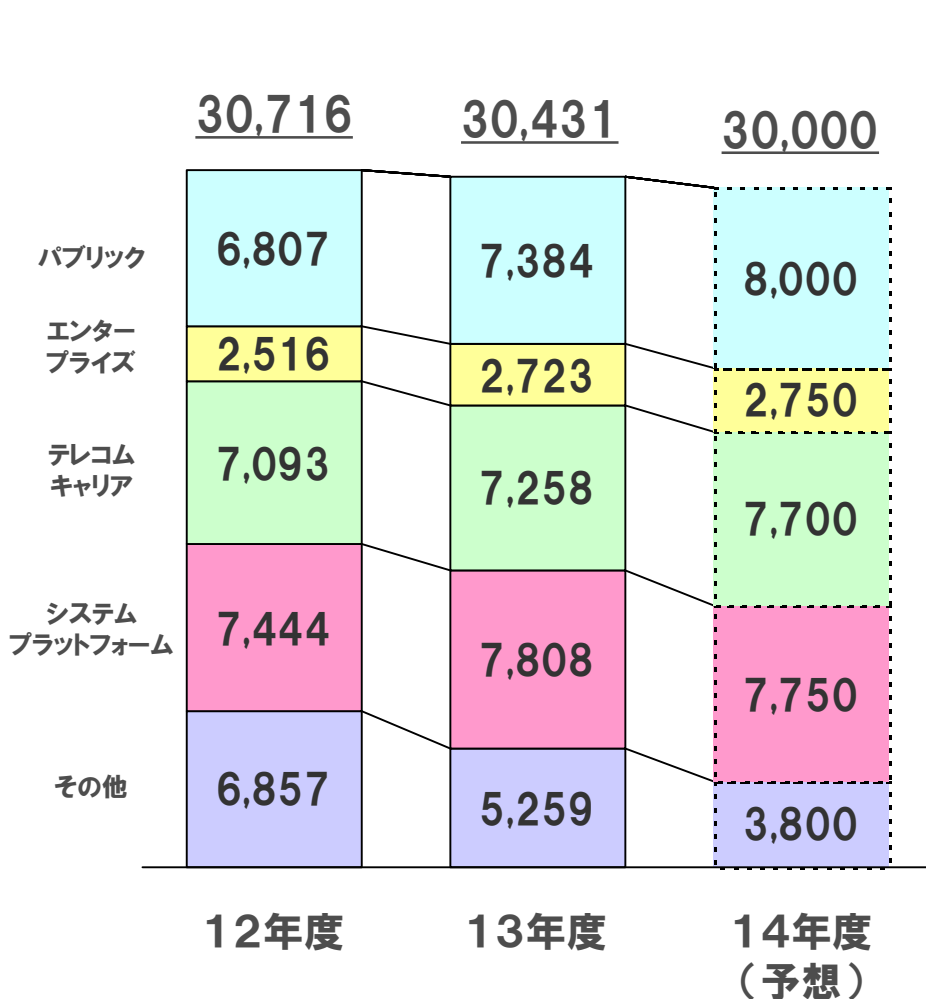
業績予想（補足）

セグメント別 業績予想 (3カ年推移)

(億円)

売上高

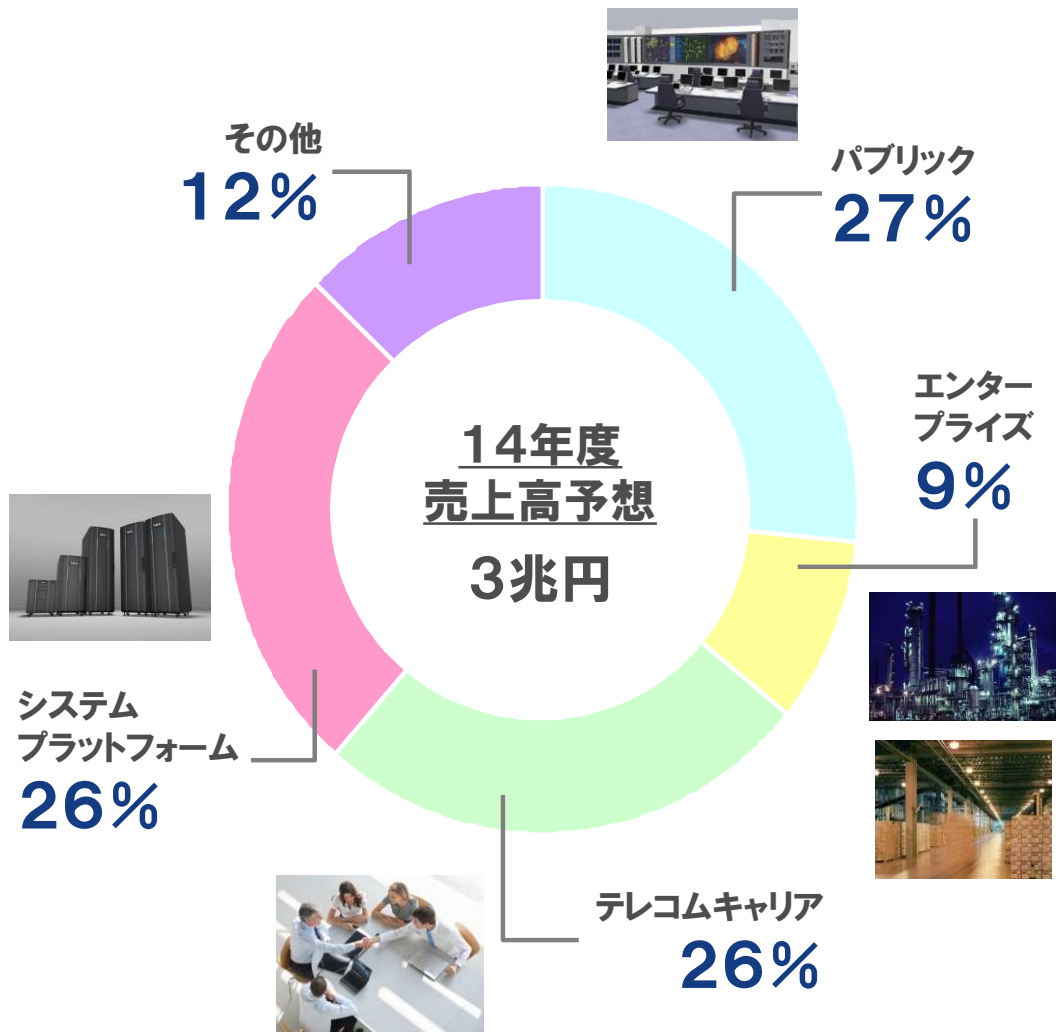
営業損益



※ 予想値は、2015年1月29日現在

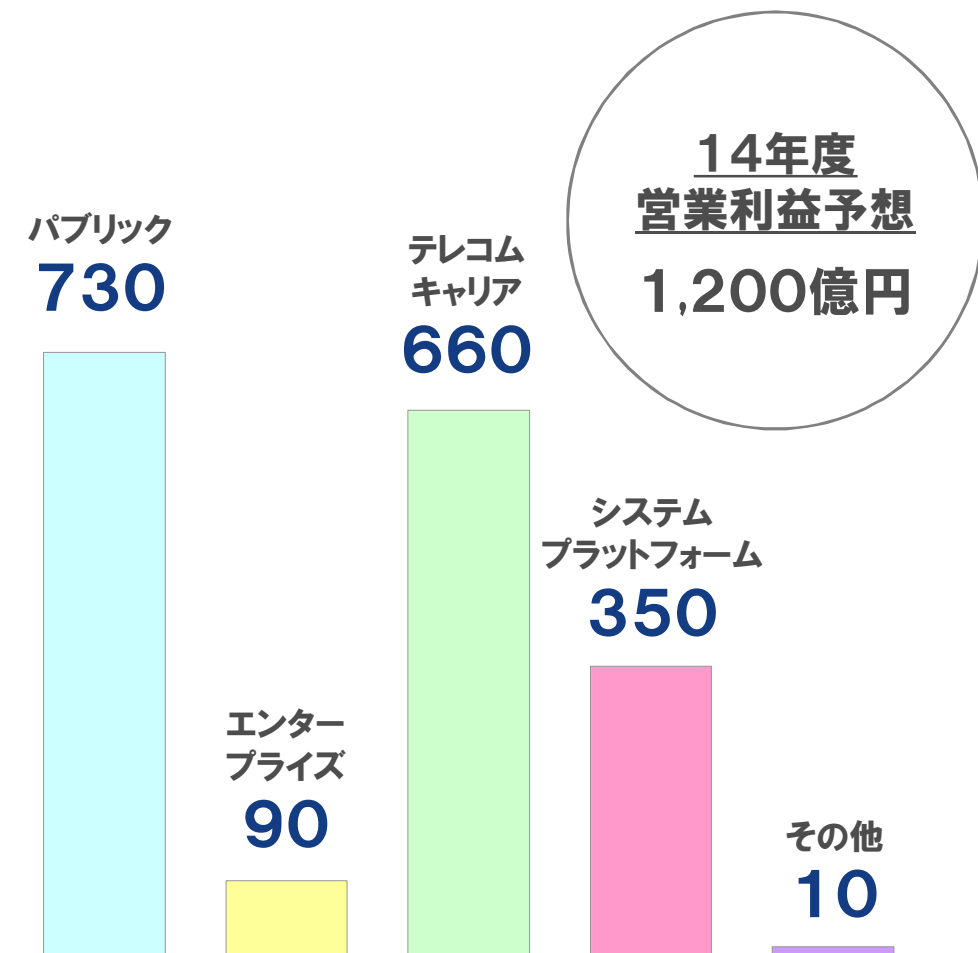
セグメント別 業績予想

売上高



営業利益

(億円)



※ 予想値は、2015年1月29日現在

売上高増減（前年度比）

（億円）

国内は横ばいを見込む
海外はTOM、モバイルバックホール、
海洋システムなどで増収を見込む

サーバやソフトウェアなどが増加するも、
ビジネスPCの減少により減収を見込む

流通・サービス業向けの
増加を見込む

テレコムキャリア
+442 (+6.1%)

システムプラットフォーム
△58 (△0.7%)

エンタープライズ
+27 (+1.0%)

携帯電話の出荷台数減

13年度
30,431

その他
△1,459

NECビッグロブ、
NECモバイリングの非連結化

パブリック
+616 (+8.3%)

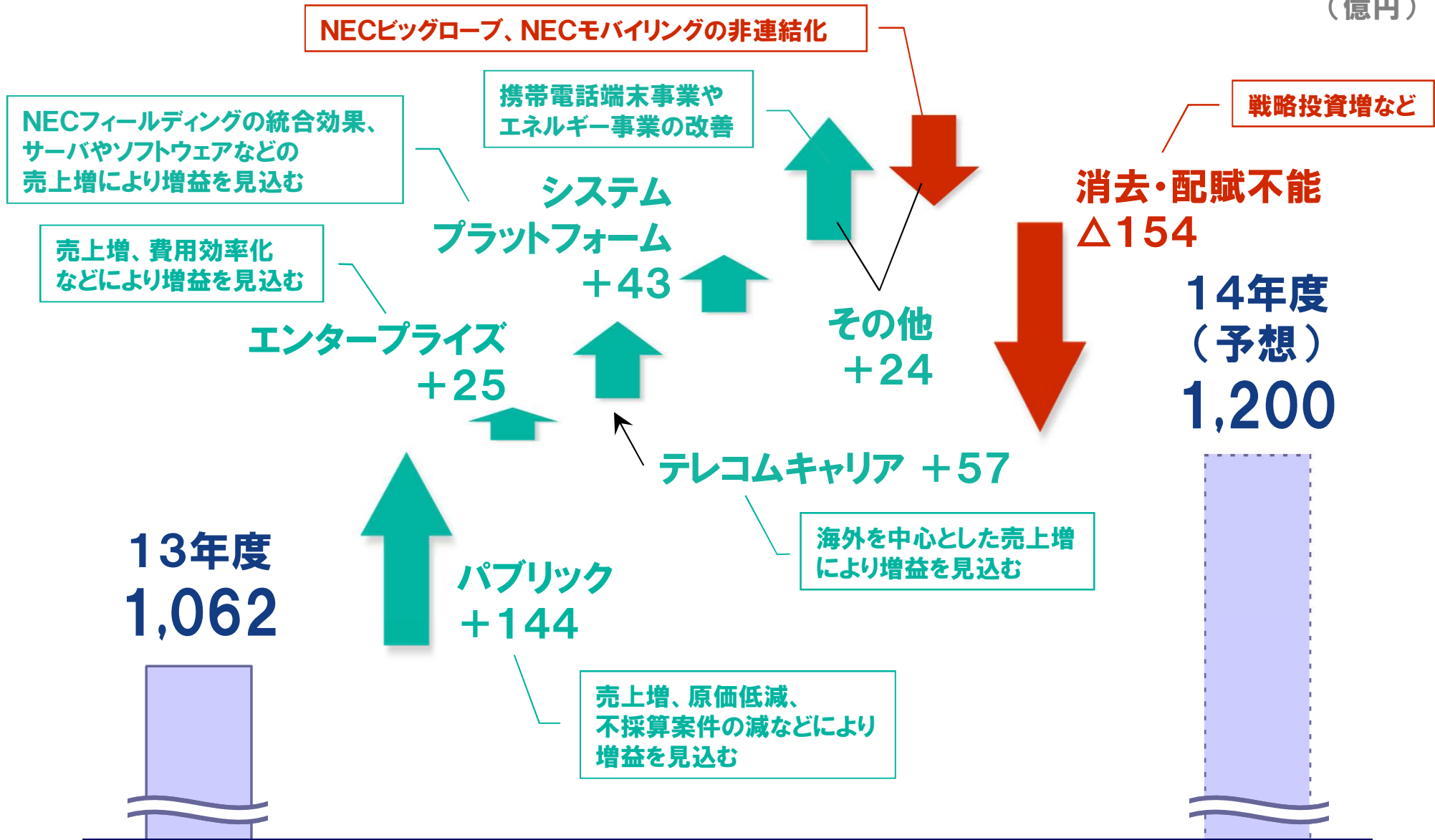
14年度
（予想）
30,000

官公向け、公共向けを中心に
堅調な推移を見込む

※ 予想値は、2015年1月29日現在

営業利益増減（前年度比）

（億円）



※ 予想値は、2015年1月29日現在

設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

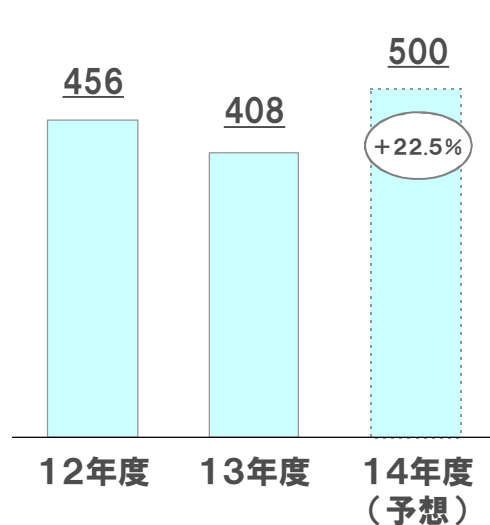
前年度比

	12年度 実績	13年度 実績	14年度 予想	前年度比
設備投資額	456	* 408	500	+ 22.5%
減価償却費	512	452	500	+ 10.7%
研究開発費	1,517	1,427	1,500	+ 5.1%
売上高比率	4.9%	4.7%	5.0%	

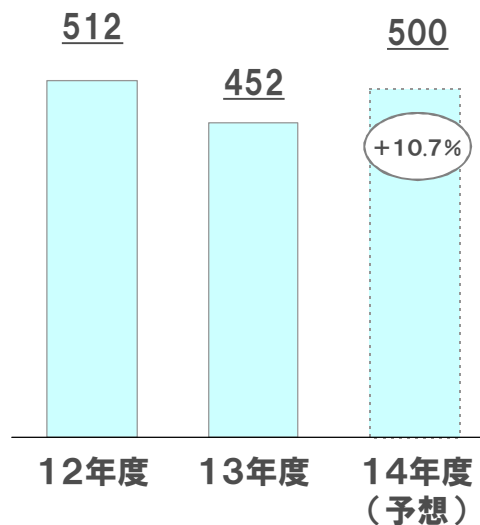
* 信託受益権の取得は含まず



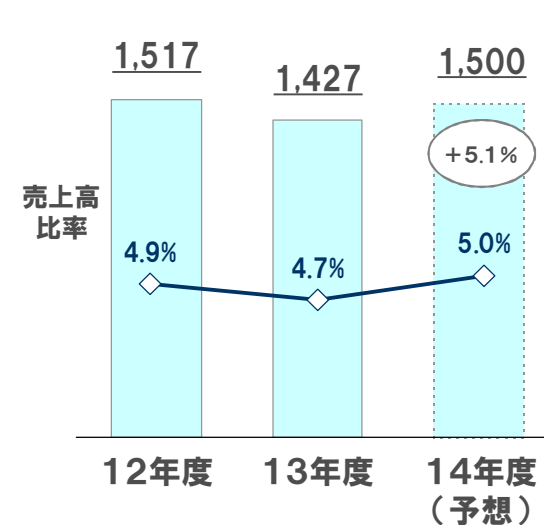
設備投資額



減価償却費



研究開発費



※ 予想値は、2015年1月29日現在

《参考》IFRSと日本基準との主要な差異

1Q決算時の開示内容

(注) 以下の数値は、当社の日本基準による業績予想数値について、国際財務報告基準（IFRS）を適用した場合の主要な差異（年金費用とのれん）についての現時点での検討に基づく試算値であり、日本基準とIFRSとの差異は以下に限るものではありません。また、以下の数値は会計監査人による監査を受けたものではなく、今後状況の変化があった場合において更新の義務を負うものでもありません。

本試算値は、投資家の参考のために自主的に作成し提供するものであり、当社は現時点においてIFRSの採用を決定していません。法令等に基づく開示書類については、日本基準に基づき今後も開示をしていきます。

(単位:億円)

	2014年度 通期		
	年金 未認識債務 償却額	のれん 償却額	計
営業利益	140	180	-
営業外損益	104		-
当期純利益	190	180	370

* IFRSでは、年金費用の計算において、数理計算上の差異等の償却を行いません。
また、のれんについても、定期償却を行いません。

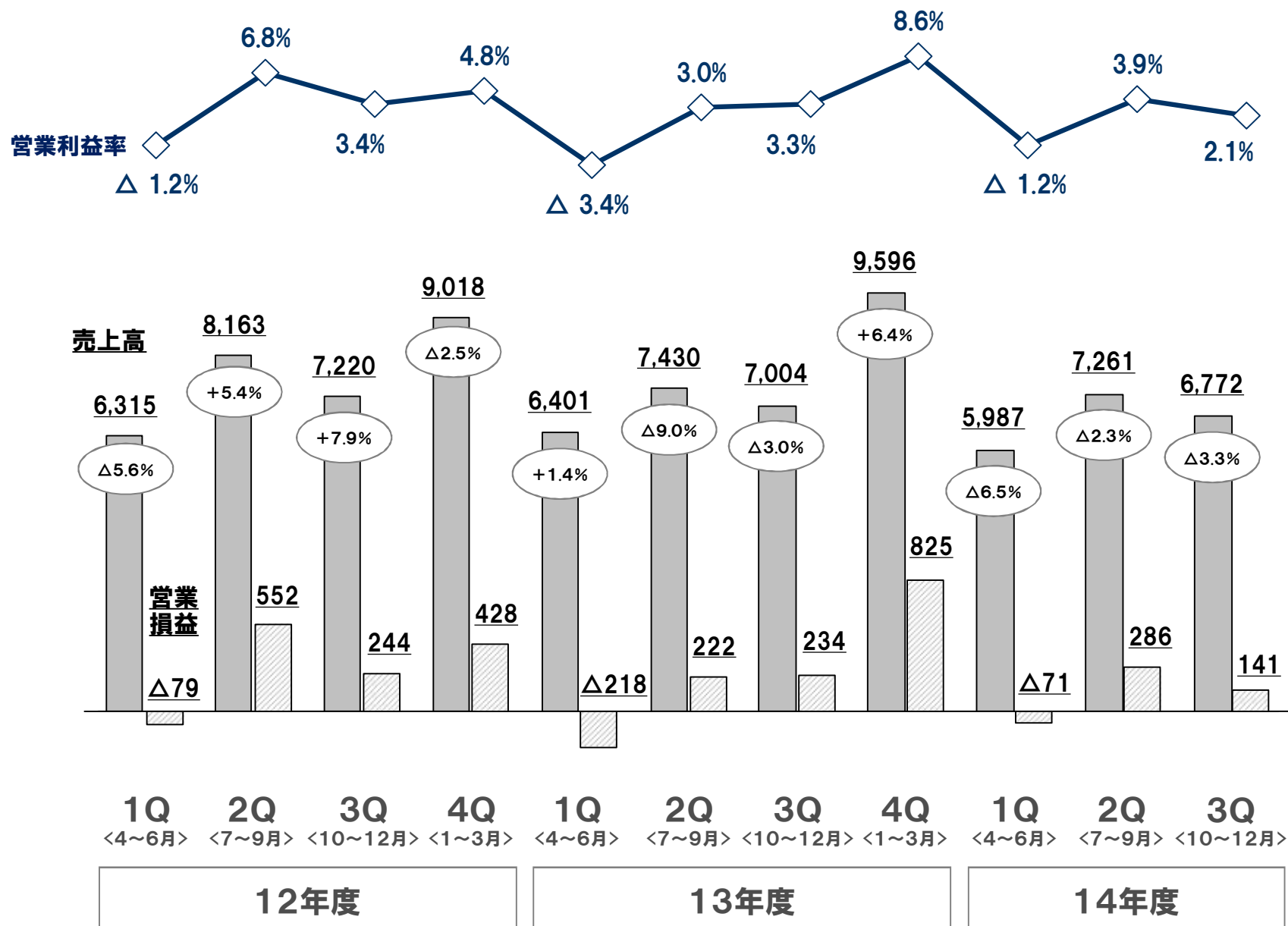
※ 予想値は、2014年7月30日現在

参考資料（業績データ）

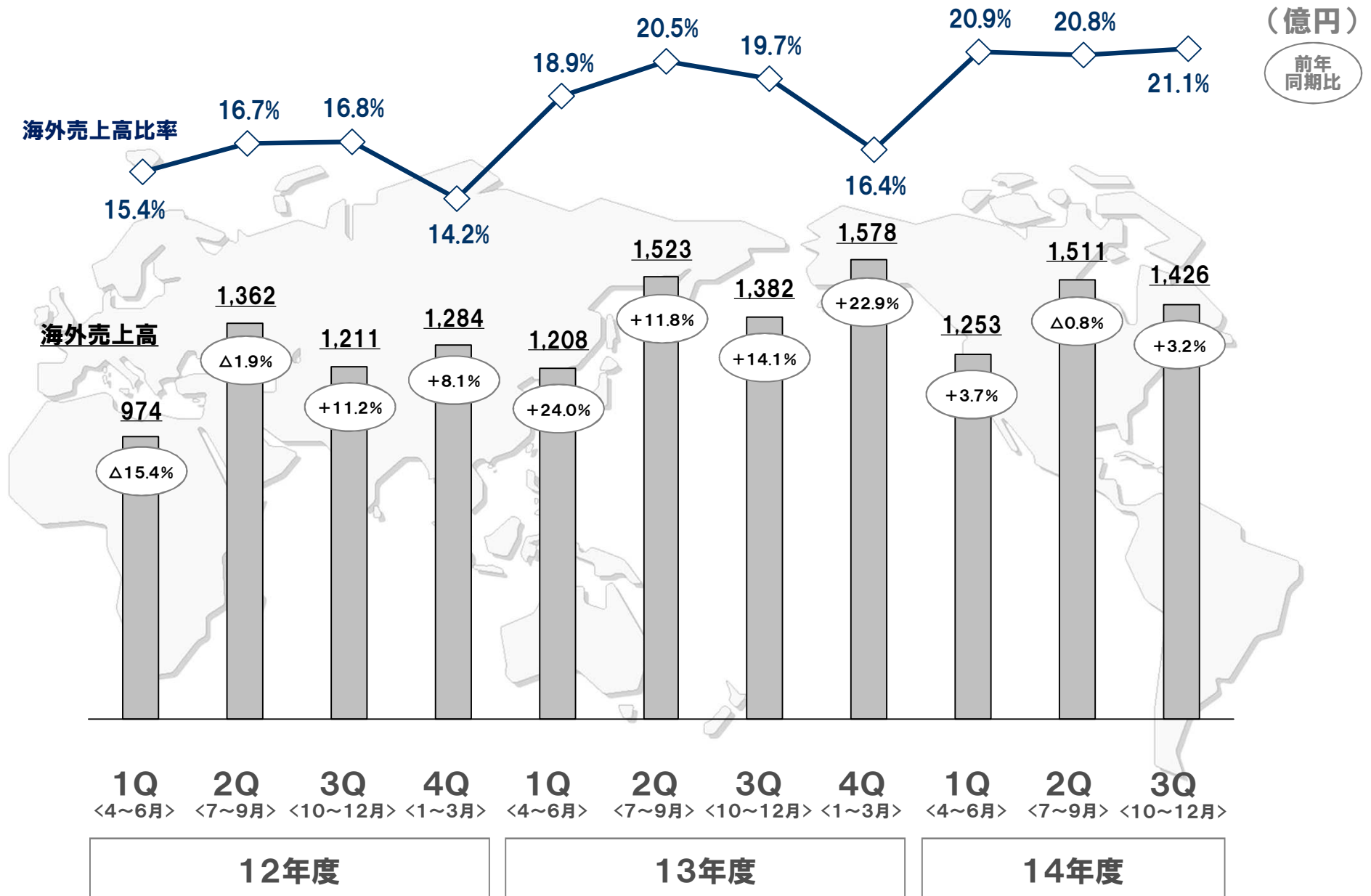
全社売上高・営業損益推移

(億円)

前年
同期比



海外売上高推移



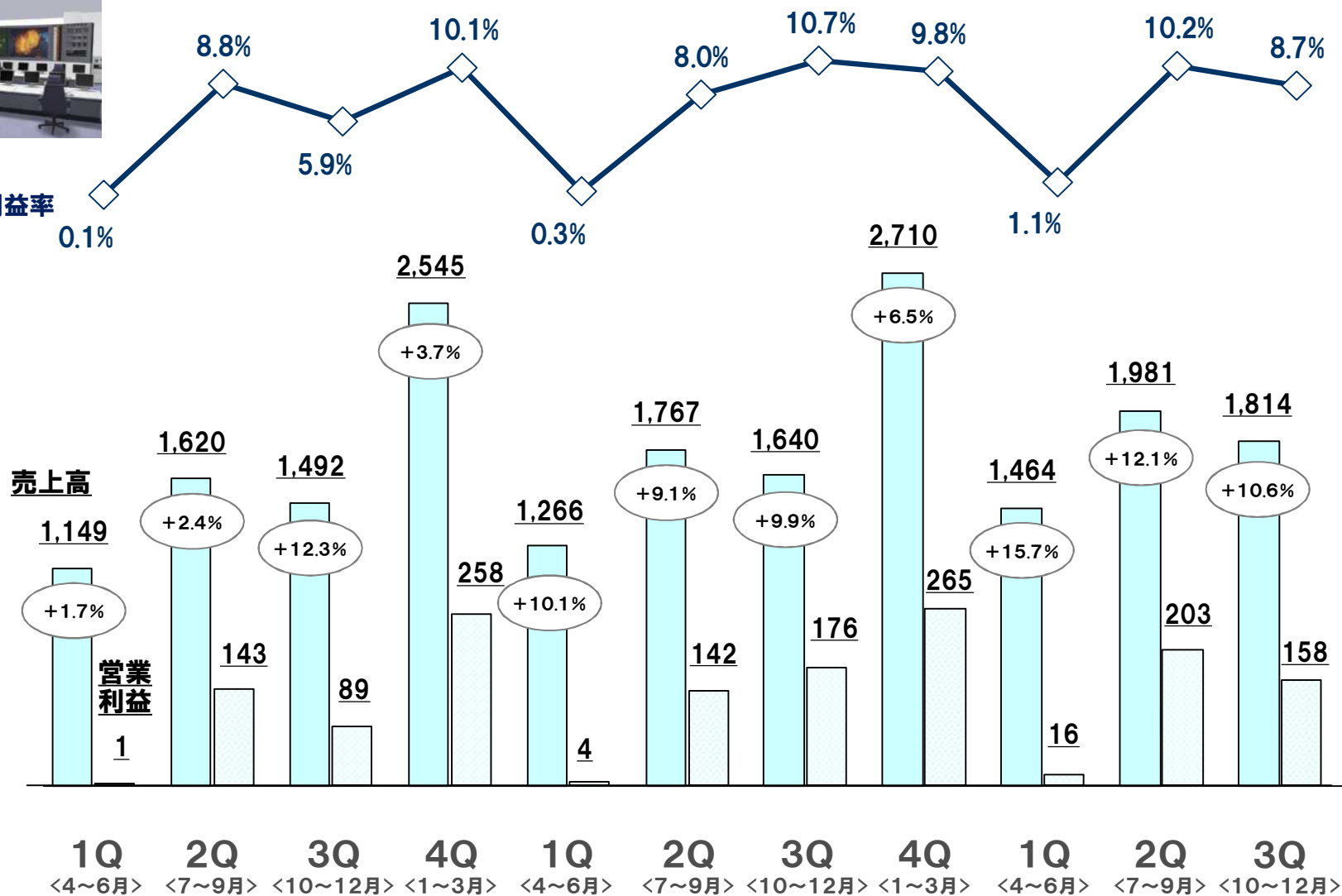
パブリック 売上高・営業利益推移

(億円)

前年
同期比



営業利益率



12年度

13年度

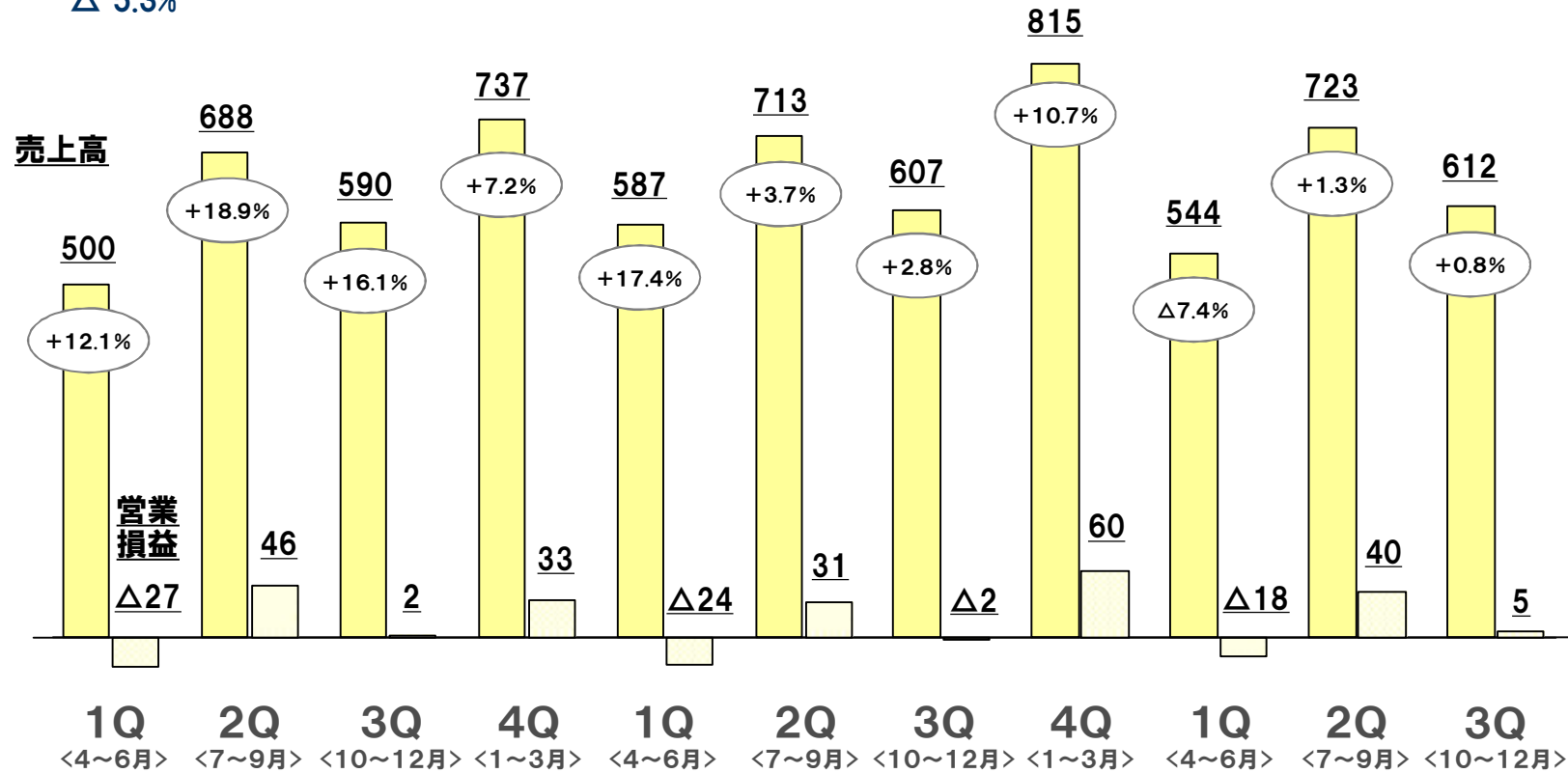
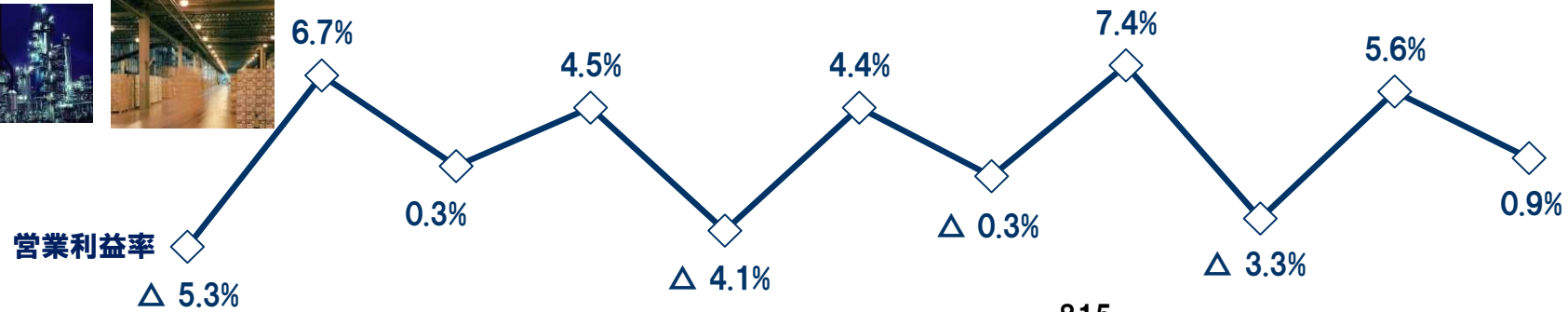
14年度

エンタープライズ 売上高・営業損益推移



(億円)

前年
同期比



12年度

13年度

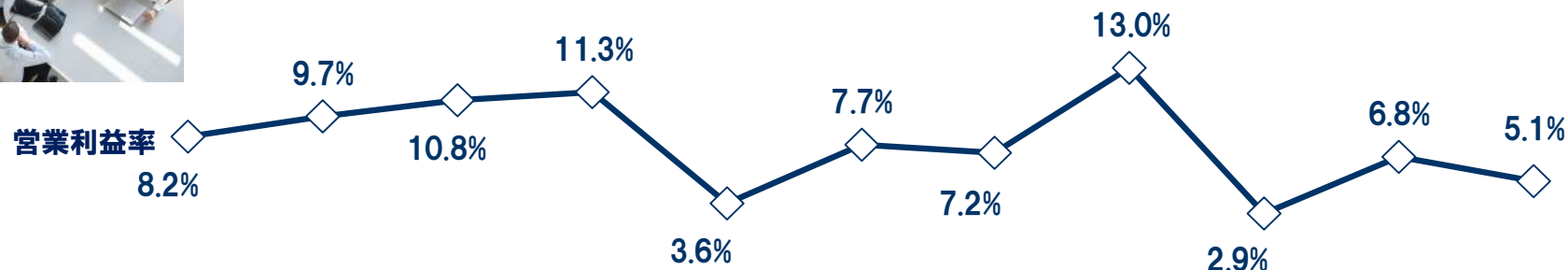
14年度

テレコムキャリア 売上高・営業利益推移

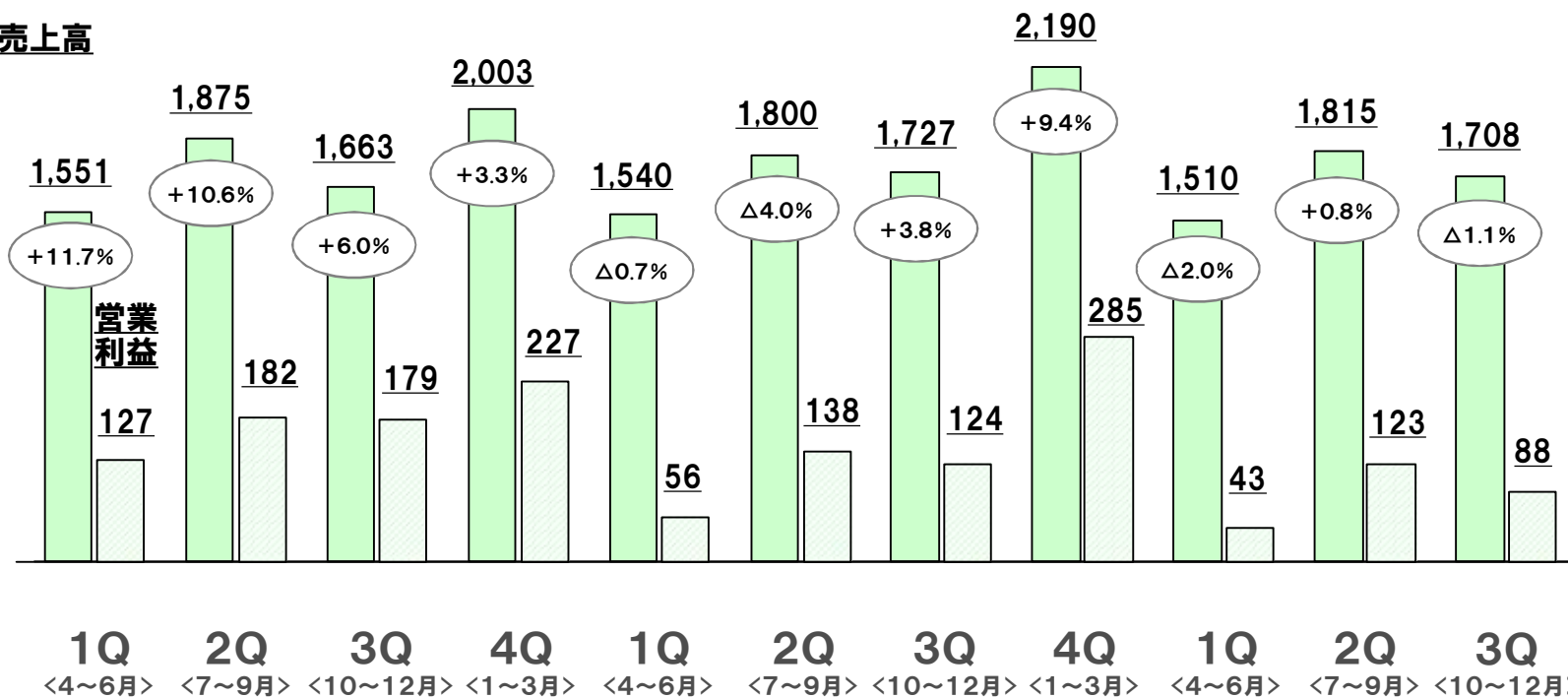


(億円)

前年
同期比



売上高



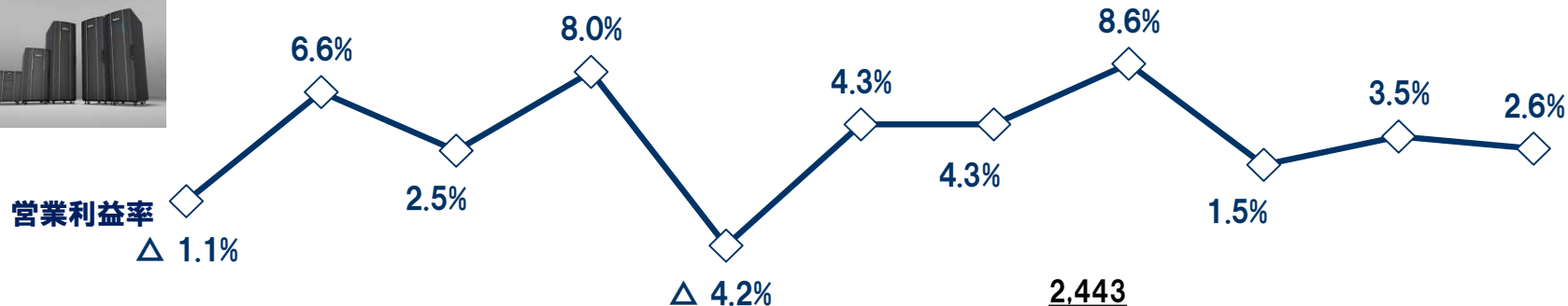
1Q <4~6月> 2Q <7~9月> 3Q <10~12月> 4Q <1~3月> 1Q <4~6月> 2Q <7~9月> 3Q <10~12月> 4Q <1~3月> 1Q <4~6月> 2Q <7~9月> 3Q <10~12月>

12年度 13年度 14年度

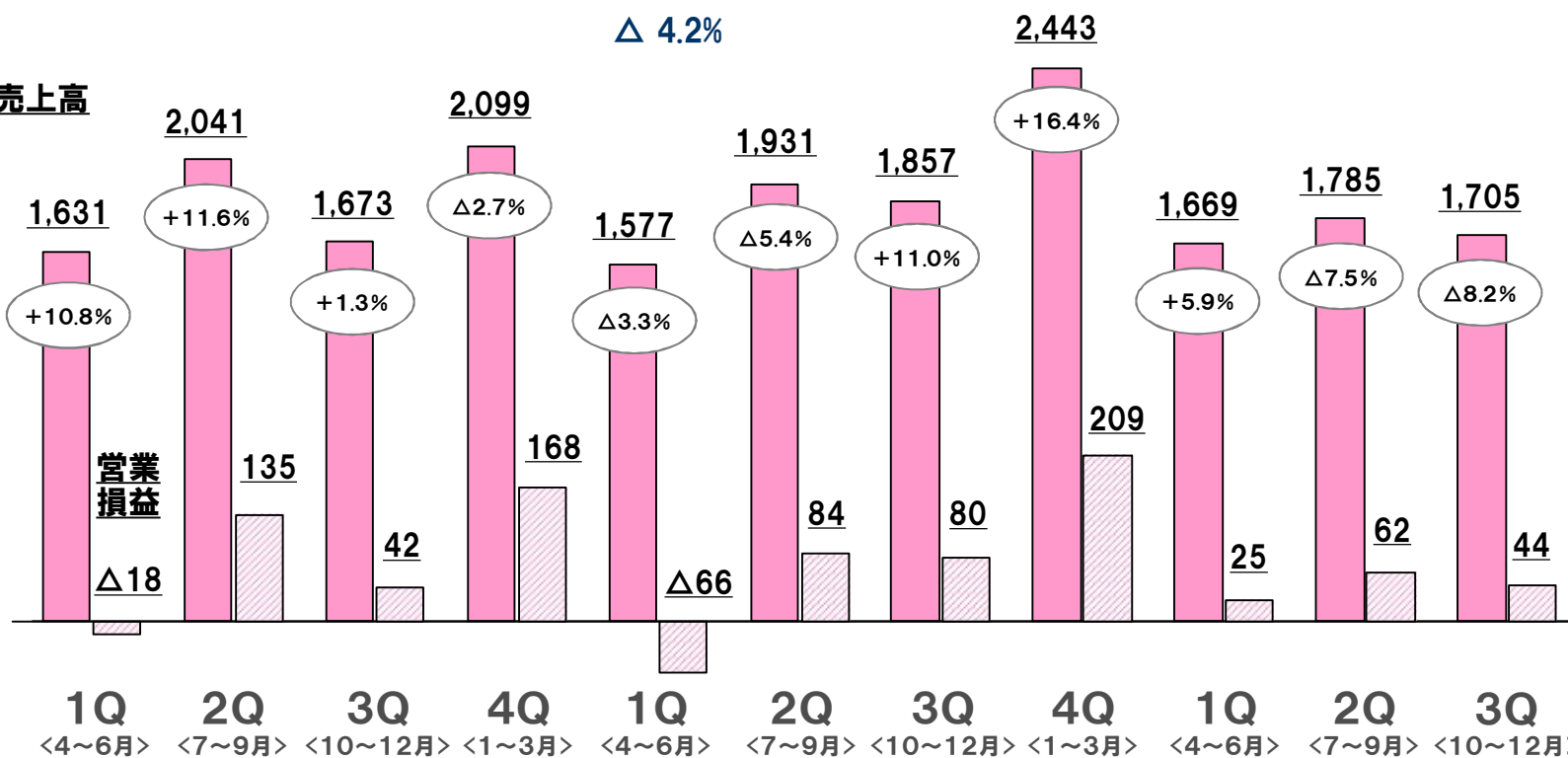
システムプラットフォーム 売上高・営業損益推移

(億円)

前年
同期比



売上高



1Q <4~6月> 2Q <7~9月> 3Q <10~12月> 4Q <1~3月> 1Q <4~6月> 2Q <7~9月> 3Q <10~12月> 4Q <1~3月> 1Q <4~6月> 2Q <7~9月> 3Q <10~12月>

12年度

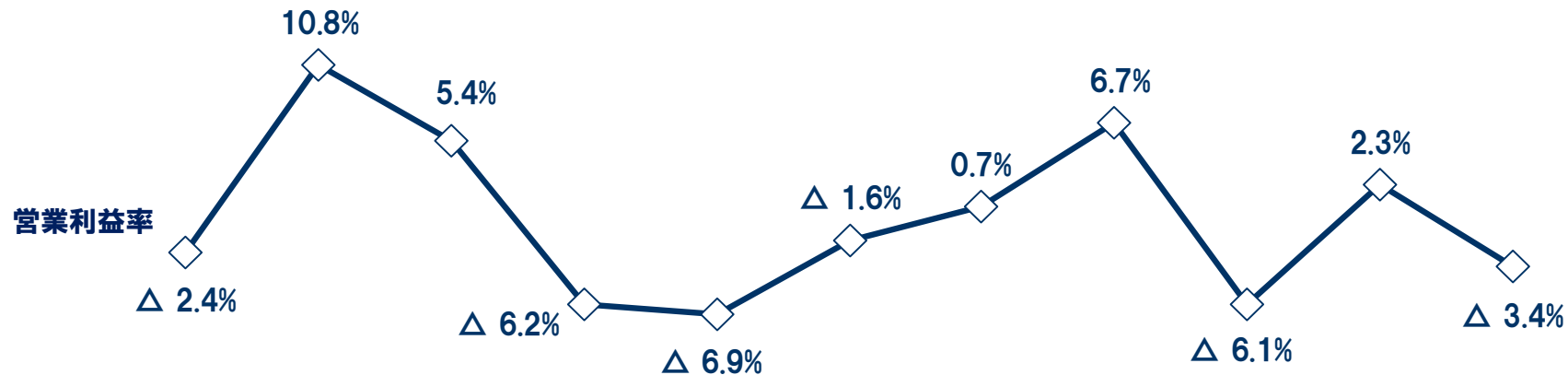
13年度

14年度

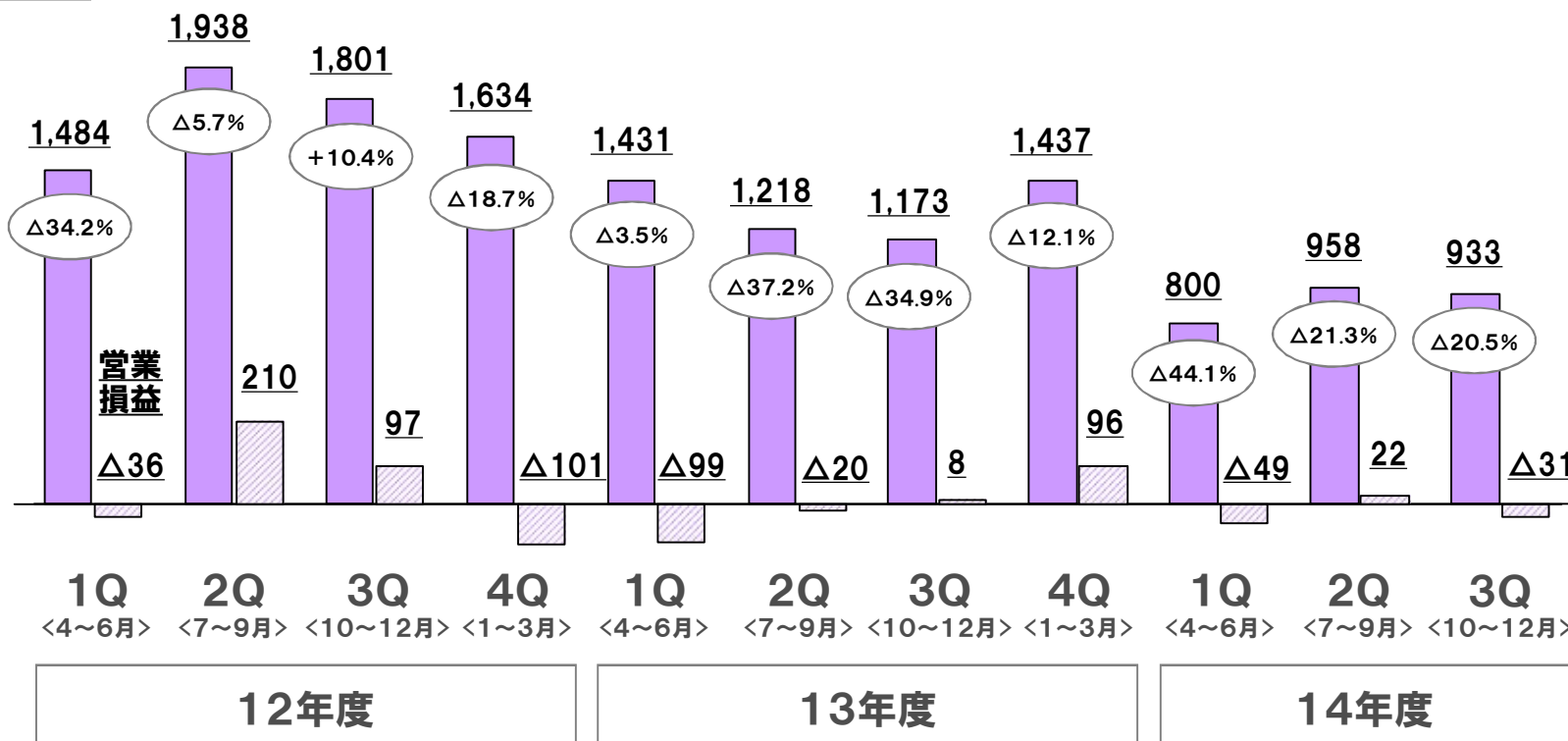
その他 売上高・営業損益推移

(億円)

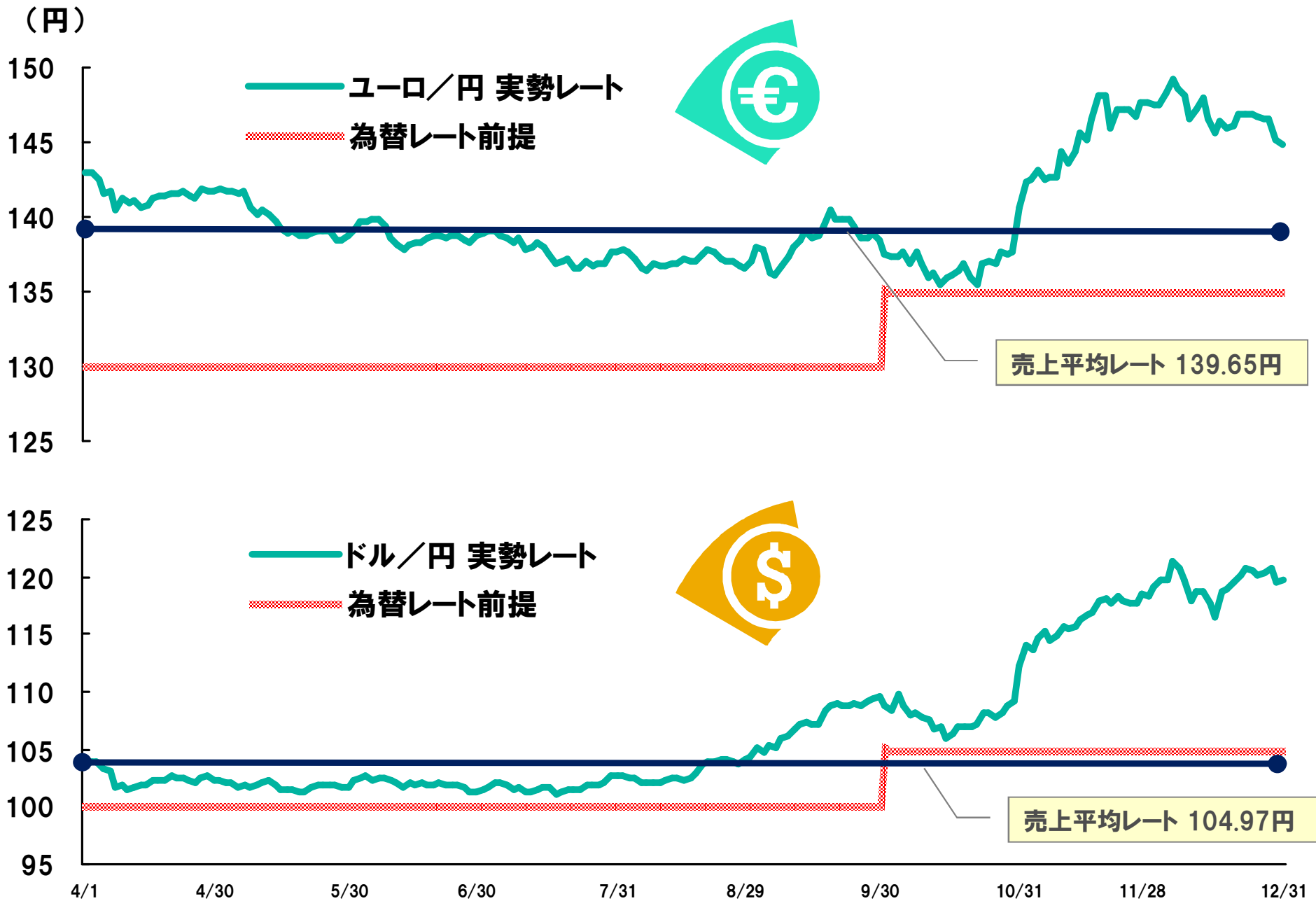
前年
同期比



売上高



為替レートの推移



株価の推移



＜将来予想に関する注意＞

本資料には日本電気株式会社および連結子会社（以下NECと総称します。）の戦略、財務目標、技術、製品、サービス、業績等に関する将来予想に関する記述が含まれています。将来予想は、NECが金融商品取引所や関東財務局長等の規制当局に提出する他の資料および株主向けの報告書その他の通知に記載されている場合があります。NECは、そのような開示を行う場合、将来予想に関するセーフハーバー（safe-harbor）ルールに準拠しています。これらの記述は、現在入手可能な仮定やデータ、方法に基づいていますが、そうした仮定やデータ、方法は必ずしも正しいとは限らず、NECは予想された結果を実現できない場合があります。また、これら将来予想に関する記述は、あくまでNECの分析や予想を記述したものであって、将来の業績を保証するものではありません。このため、これらの記述を過度に信頼することは控えるようお願いいたします。また、これらの記述はリスクや不確定な要因を含んでおり、様々な要因により実際の結果とは大きく異なりうることをあらかじめご了承ください。実際の結果に影響を与える要因には、(1) NECの事業領域を取り巻く国際経済・経済全般の情勢、(2) 市場におけるNECの製品、サービスに対する需要変動や競争激化による価格下落圧力、(3) 激しい競争にさらされた市場においてNECが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供し続けていくことができる能力、(4) NECが中国等の海外市場において事業を拡大していく能力、(5) NECの事業活動に関する規制の変更や不透明さ、潜在的な法的責任、(6) 市場環境の変化に応じてNECが経営構造を改革し、事業経営を適応させていく能力、(7) 為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動、(8) NECが保有する上場株式の減損をもたらす株価下落など、株式市場における好ましくない状況や動向、(9) NECに対する規制当局による措置や法的手続による影響等があります。将来予想に関する記述は、あくまでも公表日現在における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、NECがこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

本資料に含まれる経営目標は、予測や将来の業績に関する経営陣の現在の推定を表すものではなく、NECが事業戦略を遂行することにより経営陣が達成しようと努める目標を表すものです。

本資料に含まれる記述は、有価証券の募集を構成するものではありません。いかなる国・地域においても、法律上証券の登録が必要となる場合は、有価証券の登録を行う場合または登録の免除を受ける場合を除き、有価証券の募集または売出しを行うことはできません。

（注）

当社の連結財務諸表作成に関する会計基準は「日本基準」を採用しています。

年度表記について、2012年度は2013年3月期、2013年度は2014年3月期（以下同様）を表しています。